

生活しているのかを知ることが重要であると考えからである。

2-2 農村生活総合調査手法の適用と調査結果

本項では、農村生活総合調査のなかで今回ネパールで試用し得た部分を中心に、第2章の表2-7が示すものを具体的に説明していきながら結果をまとめる。

(1) 調査方法

生活資源カタログを含んだ、1セットの情報を得られたのは、山のマガル・インフォーマントと裕福なバフン・インフォーマントのみである。その他のインフォーマントからは時間の制約からも完全な情報を得ることはできなかった。

●調査の項目とそれを実施したインフォーマント世帯（表4-3を参照のこと）

①世帯基本調査（家族構成、生業、土地／家畜の所有及び利用状況等）

すべてのインフォーマントに対して、まずはじめに、世帯、家族の概況について、主に世帯主である夫から聞き取りをした。妻は土地の面積などについてはあまりはっきりと答えられないことがあること、また、妻は多忙なため、妻がいなくてはならない部分以外はできるだけ夫から聞き取るようにしたことがその理由である。

②男女別生活資源カタログ

夫と妻と別々に、利用している場所につれていってもらい、利用している資源（時間の制約上植物資源に限った）を示してもらい、インスタントカメラで撮影した。そのあと、その一つの写真を見ながら、その利用法を別々に聞き取った。この調査は、山のマガル・インフォーマント（調査者・夫：富田、妻：吉野）と裕福なバフン・インフォーマント（夫：武田 JOCV 隊員+森林局 C/P、妻：畑中）に対しておこなった。また、山から下りたマガル・インフォーマントへは、山のマガル・インフォーマントとともに作成した生活資源カタログを利用しての資源活用、生活の成り立ちについての聞き取りを実施した。

③生活に必要な、自給できない資源や労力の入手法を聞き取った。共有地／資源の有無とその管理、日常的な物資（調理の際の素材や調味料のやりとり、小銭等）のやりとりなどの相互扶助の現状、手間替えや雇用などの労働力確保の状況、物資の販売と購入の現状（誰に／誰から、何を、どのような形で売っているか／買っているか）、市／市場の状況について聞き取りをした。

④家族員間、地域社会などでのさまざまな活動の内容とその分担。農業暦と各作業の担当者、夫婦別の生活時間帯調査、家計の管理、地域社会との関係性と役割（どのような地域活動に関わっているか）等について、聞き取りをおこなった。すべてのインフォーマント世帯に対しておこなったが、夫婦双方には聞けなかったものや、一部インフォーマントで実施できなかった項目がある。

⑤ライフヒストリー聞き取り（未完了）

生活の変化などを知るために、ライフヒストリー聞き取りを試みたが、時間の不足から、十分なものはならなかった。山のマガル、山から下りたマガル、貧困なバフンそれぞれのインフォーマント妻からと、貧困なバフン・インフォーマント夫から話を聞いた。

表4-4 生活に必要な資源の確保と利用

利用土地パターン		山に住むマゲール・インフォーマント	山を下りたマゲール・インフォーマント	
		●天木洞(バリ、ワグ、ワグ、豆、ワグ等、雀、木々が生えている) ●養蚕場(3-4ヘリ) ●竹林(3-4ヘリ) ●灌漑畑(ケットバリ、イネ、コムギ、ジャガイモ) ●森(自分の森、ア材林、探検の森、同じ集落の他の人の森、コミュニティ) ●屋敷地(住居、家畜小屋、バザールに貸し家、野菜、果園などを栽培)	●高畑(イネ、コムギ、ジャガイモ) ●森(自分の森、コミュニティフォレスト) ●屋敷地(住居、野菜を栽培)	●山のバワワは兄弟に任せた。 ●養蚕場は借金で他人が使っている。自分の家は不評さ、家畜もいないので必要ない。 ●森は遠くなったのであまり利用しない(1、2月に薪が薪を採取に行く)。コミュニティフォレストには年費を支払っている。
収入源		農業収入、息子の給料と夫の年金	夫の大手仕事からの収入と店からの少しの収入	
賃料の確保(百分分)	食用植物	30種(うち自生種は15種にのぼる)	12種	
	薬草	6種	希別	
	建材、道具材	18種	2種	
	薪	16種	4種	
	飼養家畜	5種(羊、牛、ヤギ、ニワトリ、豚)	1種(ニワトリ)	
	家畜飼料	34種	利用なし	
自生植物類/採植物類	31/70種	4/16種	自分の資源が枯ったので、今は木株はすべて買わないといけない	
一日の仕事(仕事)	6:00起床-1日雇の千人一人前夜の食費高い-茶作り-家畜の世話、乳搾り-調理/料理採取(娘が調理してくれる場合)-10:00朝食-1日の作業/薪集め-12時-夕食作り-夕食-10:00就寝	5:00起床-1日雇の千人一人前夜の食費高い-茶、軽食を作って食べる-9:00朝食を作って食べる-息番/買い物の準備-自分の利用分-1時間薪-ニワトリの世話-夕食を作って食べる-22:00就寝	山に住んでいたときは1日中農作業で薪採取、畜集めなど休むことがなかった。ここに来ていまだ茶に慣れない。夫は1日雇の準備をしておき、山に住んでいたときは薪作業はほとんどしていない。	
一日の仕事(家事)	05:30起床-洗濯、家畜にエサ、畜舎の掃除-水汲、薪切り-9:00朝食-9:00朝食-9:00朝食-12:00朝食-13:00朝食、買い物、息子出稼など(その日の目的に合わせて)-19:00(冬期には18:00)作業を終えて林宅、畜舎の掃除、家畜へのエサやり-20:00夕食-22:00就寝	6:00起床-洗剤/木屑、茶をつくり、妻と交代で薪作り-9:00朝食-1時間(大手仕事)-11:00軽食(現場で)-13:00仕事終了-13:30帰宅、薪集め、妻の手洗い-20:00夕食-22:00就寝	山に住んでいたときは1日中農作業で薪採取、畜集めなど休むことがなかった。ここに来ていまだ茶に慣れない。夫は1日雇の準備をしておき、山に住んでいたときは薪作業はほとんどしていない。	
家計の管理	収入は夫が管理している。食料、日用品から家畜、土地などの売買まで夫(と長男)が管理している。妻が手にできるのはロキシー(現金)、ミルカを貯を前泊の人に売って得た小金のみ。これは自分の収入を貯。	妻は夫が管理して収入は妻が管理することにした。家賃の貯りも妻がする。	山に住んだときは妻の自由になる金もロキシーづくりで得たものくらいで、妻と長男と別々にロキシーを貯りそれぞれ小遣いをもらっていた。	
暮らし方、つきあい	夫の両親の存在は中心で、夫の兄弟家系も8年前まで同居していた。ブルカオリ(最も近い兄弟の親類)との付き合いが深い。よくに妻は兄弟の4人組の娘たちと別居して日本の生活を送り立てている。息子や通算律は長カーストの人に慣れたこともある。	妻は4、5回ほど生家に戻る。生家から、親戚がやってくることもある。	山に住んでいたときは夫の両親と同居していたが、現在は夫と二人暮らし。ア材林のつきあいもあるが、距離的に遠くなったので、妻の自警生活の助け合いなどは血縁関係のない近所の女性たちが多い。また、長カーストの人に仕事してもらったこともある。	
備考	山を下りたことも考えていたが、現在よりあまらずに残ることにしている。 * 近所関係や近所内について、夫と妻の間で意見が食い違ったものも、そのままである。また、活動の頻度については、あまり差務ものではない。目安期間である。	山から下りたのは、妻の体の具合が悪くなり、きつい仕事ができなかったため。病気のために、息子子供も3人がいることができなかった。		

	貧困なバワン(プログラム)・インフォーマント		貧困なバワン・インフォーマント	貧困なバワン(種、豆、番、甜木、竹)	貧困な下位カースト・インフォーマント		
利用土地パターン	●高畑畑(イネ、小麦、トウモロコシ、ソバなど)、野菜畑、多様な果樹園。 ●山(炭、木材、燃料となる木々) ●遊牧地(住居、家畜小屋、果樹、柿木などを共済)	●耕地はバワンの向こうの谷間で対向にある。南向きのゆるやかな斜面。二期作なども含めた。イネを中心にすえた栽培生産に加え、多様な果樹、野菜も栽培している。 ●屋敷もバワンの山と山間の谷間にバワンと2ヶ所にある。バワンの谷間に住居の家族が主に住んで耕地を管理している。	●灌漑畑(イネ、コムギ、サトウ) ●森(村の他の人の森の下草を刈らせてもらっている) ●原牧地(住居、バナナを栽培)	●最も狭く小さな高畑しかない上に年々土質悪化し生産力も下がってきた。1斗1斗へ過してからは遠くになり作業は人業になったが、夫の兄弟の妻らと協力している(注)。 ●お芋があるケットは昨年土壌崩れで石に埋まってしまった。しかし妻は今年も作る予定である。 ●コミュニティフォレストは年費が払えないので利用できない。 ●原牧地も石だらけで(昔に昨年以前は鉄道の土石の通り道になってしまった)ほとんど回もつかない。 ●原牧地(住居、家畜小屋、野菜、果樹などをお芋に栽培)	●耕地は傾斜のきつい南向き斜面にあり、植もせまい。		
収入源	農業、バザールでの食費減価販売経営		夫妻の日雇い労働、夫の竹細工、農業収入	借金かきんでおり、そのためほとんど農地が売りにとられてしまっている。	夫の目原の仕事、妻も食料が足りない時にバワールで日雇い仕事をする。		
資産の残存(自給)	食用動物	37種(自生種は少ない)	各種の高品質も高い栽培動物を飼っている。苗木は隣村の9000円超する高畑からもらっていることもある。	8種	食料は自給できないため、借金をしてでも買わないといけない。	6種	食料は自給できないため、借金をしてでも買わないといけない。
	薬草	3種		不明		不明	
	建材、道具材	8種		不明		なし	
	穀目	9種	ケロンン産も穀目として併せて使っている。ワロン(付産は長時間かかる)から買ってくる(安いので)。	不明		不明	
	飼養家畜	3種(水牛、牛、ヤギ)		2種(水牛、牛)	妻の畜で借りた金で買った。ミルク、畜力、卵のため必要。	3種(水牛、牛、ニワトリ)	年まだ子どもの売り上げや卵を売って年々徐々に貯蓄を積み重ねている。
	家畜飼料	12種		不明(糞、ワラ干野生の下草)	主な飼料となる草は妻が田原いで働いているマカールの家の倉から貯らせてもらっている。夫が日雇いの作業の後に、バワリの畑に生えている草を刈らせてもらうこともある(そのときは賃金から差し引かれる)	不明	
	自生植物性/根拠物性	9/52種	ほとんどの植物は栽培植物で自生のものは少ない。	10/18種		3/11種	
一日の仕事(注)	5:00起床-赤飯-掃除-折り-お茶作り-朝食作り-11:00朝食(息子たちに食べさせてから)-食割(洗い)-洗濯-家の準備は主に夫がしている。耕地は、向こうに住む息子の家族がもたらされており、農作業が忙しな時は息子に手伝ってもらっている。食料は向こうに借り込んで管で作業をする。	●22:00自分の食、食器洗い-23:00就寝		4:00起床-花屋の手入れ-牛糞をまどめる-家畜のやり-乳取り、乳を煮る-朝食作り-11:00朝食-食割(洗い)-花の仕入れ-家畜のえさ集め-牛糞をまどめる-家畜のやり-水汲-水汲び-休憩-水汲び-1:00夕食作り-夕食-就寝	農作業が忙しなときは朝飯後10時~6時まででほとんど妻が(家にだけか一人いる)の妻があるが、たいてい夫が(夜)。	●8:30に家を出て、10時か5時まで日雇いの仕事をしている。	自分も日雇いの仕事をしたいが、賃金が安いので、あまりいいかない。子供たちは学校に行っていないが、母も学校に行くよりは自分たちの仕事の手伝いをしたいと考えている。
一日の仕事(注)	5:00起床、洗濯-水牛の乳取り-8:00食を飲む-窓拭き-9:00-準備-本現用の家畜-11:00朝食-風呂に入る-17:00帰宅、食を飲む-水牛の乳取り-くつろぐ-お祈り-夕食-20:30くつろぐ-22:00就寝		不明				
家計の管理	夫は農業を主に担っており、農作物は余剰分の夫が売り、管理している。夫が頻りに行くことが多いが、農業の収入は妻が管理し、夫で使ったその費用は妻が返している。			家計は夫が管理、妻が貯めるミルクやそれが作るギ-の収入も夫が管理。	親戚以外の複数の人々-地帯から多額の借金を借入している。向うに入れた土地はほとんど手放し、現在所有している土地も借入に取られている。	不明	
暮らし方、つきあい	●バワンの町ジワ-下の貧しい家族に住むバワン-の出入りに借金もあって借入している。また、農業には貧困なマカールの男性をまかないと宿泊場所を提供する形で働かせている(賃金は安し?)。		また逆に低カーストの人たちに対しては高畑(ミルク、野菜など)を借入させるときを争うにすれば貸し出したりなど相互依存関係が強い。低カーストの人々にはほとんどが条件の悪い小さな土地しか持たない貧民である。	以前の家に住む夫の兄弟の家族とも農作業などで協力合っている。妻が働きにでている家を住わせてもらっている。		同じワ-下のバワンの仕事をしたり、家畜を借りたりするも、とくに経済的な側面でのバワンとのつながりが強い。また、家の建設などの共同作業は互いに助け合っている。	
備考	8年ほど前にバワンの村の中心地によって農業を始めた。土地は傾斜は緩やかな南向きの斜面にあり、バワンの村の縁地も高いバワンに接している。		3の年は以前に山の下の方から移ってきた。バワールで草を刈る時期のよい時期もあったが、上の息子たちに乗り上げを持ち逃げされるなどして関係が悪化していった。				



(2) 農村生活を支える基本的要素を知る

本調査では、まず村に特徴的と思われる生活のパターンを見つけ、そのパターンが成り立つのに必要とされるさまざまな資源の組み合わせを探る作業をする。それは、村の人々が生活のためにどのような資源を利用し、また必要としているか、を明らかにするためである。

1) 生活を成り立たせるためにどのような要素が必要であると考え、土地の利用、資源の利用が成されているか？

聞き取り調査の結果をもとに、各インフォーマントの生活をいくつかの項目に分けてまとめたものが表4-4である。調査の内容には濃淡があるが、暮らしぶりの違いがみえてくる。

① 山に住むために必要な生活資源

今回の調査では、山の暮らしとバザールの暮らしの対比を一つの切り口としてインフォーマントを設定している。できてから10数年ほどしか経っていないバザールでの暮らしと比較すると、山の暮らしはより伝統的な生活の形を保持しているものと考えられるし、多くの村人が依然山に住み、バザールに下りられるのは経済的に余裕のある人から優先されている現状を見ると、山での暮らしの仕組みをトリベニ村での生活の重要な基本型のひとつと捉えることができるのではないかと考えたためである。そこで、まず最初に山のマガール・インフォーマントが所有/利用している資源とその変化の様子を聞き取った。

表4-4の利用資源の部分を、山のマガール・インフォーマントを山から下りたマガール・インフォーマントおよび、貧困な低カースト・インフォーマントと比較して簡単にまとめたものが表4-5である。

また、図4-3は山のマガール・インフォーマントの利用資源の場所を示している。聞き取りとインフォーマントに連れられての踏査から作成したもので、コンパスと調査者の足と目を用いただけでつくられた。高度は調査者の腕時計についた高度計から読みとった。これを見ると、いろいろな場所に散らばった土地をさまざまな用途で利用し資源を得ていることがわかる。彼/彼女らは山には住んでいるが、水稲などをつくるためにバザール近くの灌漑できる畑も所有している。このように資源がさまざまな場所にあるために、作業は必ず移動を含み、堆肥や収穫物の運搬は大変な労働になる。それでも、森や天水の畑は山の中にあるし、灌漑畑は低地の溪流の近くでしかつけれないから、生活に必要な資源を自分で確保するためには、このような上下に広がる資源利用が必要なのである。

山のマガール・インフォーマントと山から下りたマガール・インフォーマントの利用資源を比較すると、山から下りたマガール・インフォーマントでは、かなり資源の利用の幅がせばまっていることが分かる。山にある畑の耕作はやめ、森もほとんど利用しない。表4-4の利用植物資源の種類を比較すると、山のマガール・インフォーマントは70種であるのに対して、山から下りたマガール・インフォーマントはわずか16種である。山から下りたマガール・インフォーマント妻は、山にある夫の生家の大きなジャックフルーツの木をなつかしんでいた。

また、山から下りたマガール・インフォーマントは家畜の飼養も活発でない。これについて、インフォーマント妻は森と結びつけてこのように説明してくれた。「今は森の植物ほとんど利用しない。それは、もう牛や水牛を飼っていないからだ。しかし、牛や水牛を飼わな

表4-5 インフォーマントの利用資源

インフォーマント	利用 / 所有資源	資源用途	
山のマカール・インフォーマント	畑 (天水 : bari)	食用作物 (ソケ ^エ 、トモコ ^ソ 、マ ^リ 類等)、野生の草木 (飼料、燃料、木材、薬用)	
	畑 (灌漑 : khet bari)	食用作物 (休、コキ ^キ 、ナネ、ジャ ^カ 仔等)、ワ ^ラ (道具の材料)	
	茅取り場 (Khor bari)	茅 (飼料、屋根材)、野生の草木 (飼料、燃料、木材、道具の材料、食用)	
	タケ林 (nigala bari)	タケ (道具の材料)、野生の草木 (飼料、燃料、木材、道具の材料、食用)	
	森 (bon)	自分の森 (niz bon)	野生の木々や灌木 (燃料、木材、飼料、食用)
		親族集団 (purkauli) の森	野生の木々や灌木 (飼料、燃料、木材)
		コミュニティ・フォレスト (shamadahik bon)	野生の木々や灌木 (燃料)
		近所の人々の森	野生の果樹
		妻の生家 (mailo) の森	野生の果樹
	屋敷地	屋敷、作業場	居住、作業
		家庭菜園	野菜、果樹、その他草木 (飼料、燃料、木材、垣根、食用、薬用)
家畜 (牛、水牛、ヤギ、ニトリ、ブタ等)		食用 (乳、乳製品、肉、卵)、畜力、堆肥	
山から下りたマカール・インフォーマント	畑 (天水)	* 夫の兄弟に任せた。	
	畑 (灌漑)	休、コキ ^キ 、ナネをわずかに栽培。ワ ^ラ は不足するため、近隣の人から分けてもらう	
	茅取り場	* 借金の担保に出して利用できない。	
	森	自分の森	野生の木々や灌木 (燃料、木材)
		コミュニティ・フォレスト	野生の木々や灌木 (燃料)
	屋敷地	住居、作業場	居住、作業
		家庭菜園	わずかな野菜のみ、樹木はない。
家畜 (ニトリのみ)		卵、肉	
貧困な低カースト・インフォーマント	畑 (天水)	作物 (ソケ ^エ 、野菜)、マ ^リ (宗教の供儀用)	
	屋敷地	住居、作業場	居住、作業
		家庭菜園	わずかな野菜と樹木
		家畜 (牛、水牛、ニトリ)	水牛はパ ^カ の家から借り分け小作。乳、畜力、堆肥を利用。

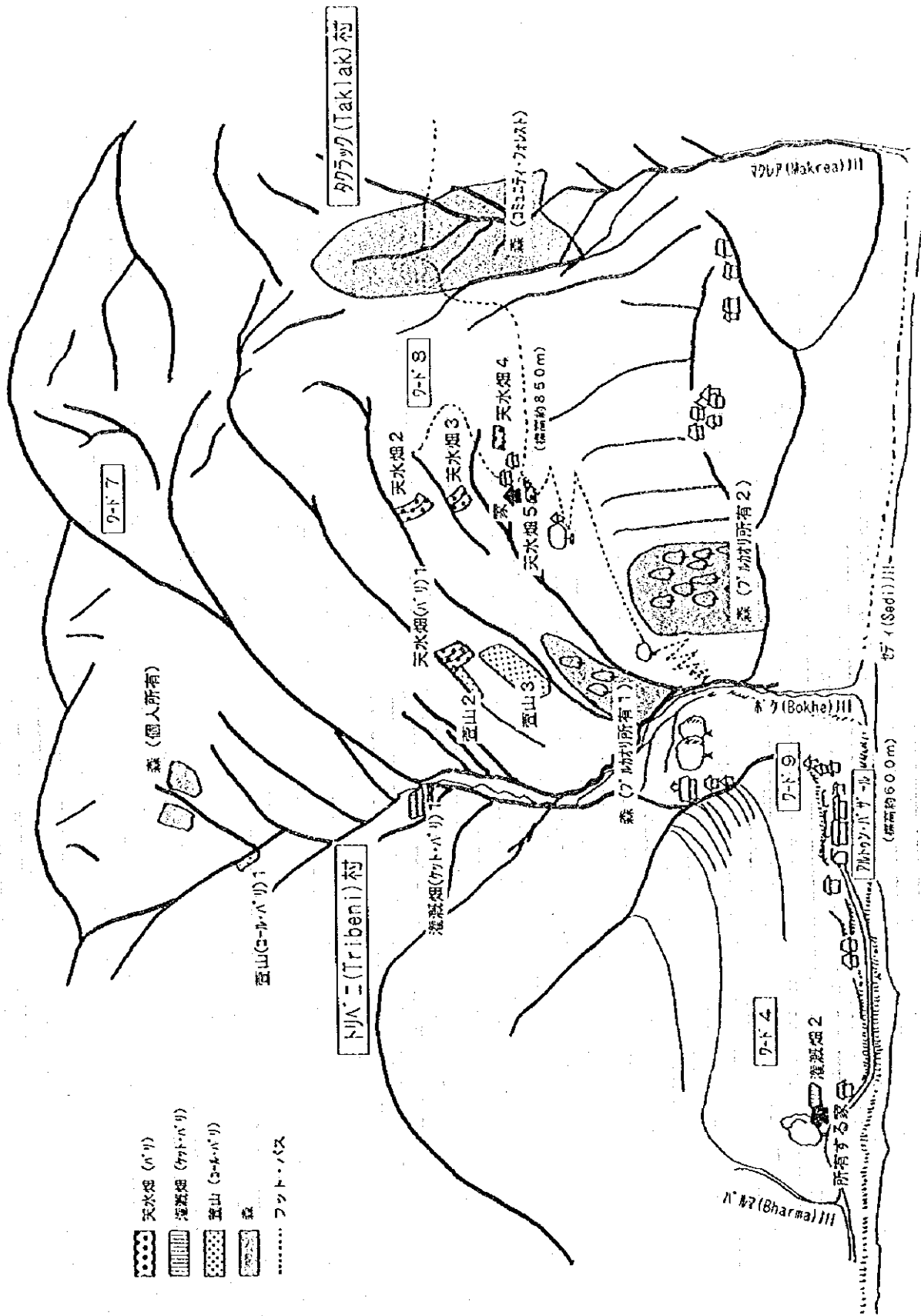


図4-3 山のマガール・インフオアモントの所有・利用する土地

いのは、山から下りたために森が遠くなってしまったからで、エサが家の回りで十分まかなえるのならば牛や水牛を飼いたい。乳が搾れるし、牛糞も手にはいる。(牛糞をどうするか、というこちら側の問いに対して、)牛糞はうちでは余り使わないが、肥料として牛糞を買いたいという人もいるので」。

生活の基本型を考えると、それぞれの要素のもつ役割とその関連性への視点が重要になる。日々の暮らしのためにどのようなものが必要と考えられているか、それらはどこからどのようにして確保しているか。例えば、畑の堆肥としては牛の糞が、耕起には牛が必要であるが、牛を飼うためには、森の飼料木、萱や作物の残さが必要となる。そして集めた飼料を運ぶ背負いカゴを作るには竹が必要になる。また、牛などが畑に迷い込んで来ないようにするには、森から枝を切ってきて柵を作る必要もある。

このように畑、家畜、森はその役割を密接に関連させ合いながら、村人の生活を作り上げていることが分かる。そのうちのどれかが欠けると、資源利用のサイクル、バランスが崩れ、他の部分にも大きく影響するようになる。そして、現金をとおしての入手によって置き換えていかざるを得なくなる。「バザールでは、水以外はすべてお金がかかる」、これは山から下りたマガル・インフォーマント妻の実感である。

農作業のサイクルは、村人の暮らしのリズムに密接に関係を持っている。村人たちの大きな楽しみである「ダサイン、ティハールの大きい祭りの前にはだいたい終わるように、またさまざまな収穫物が祭りに利用できるように考えている」と一年の農作業の流れについて山のマガル・インフォーマント夫は説明してくれた(図4-4)。また、屋敷の屋根裏にはダサイン用の肉置き場が設けられており(そのときだけ利用、他の時期には蜂が巣を作ることもある)、祭も含めて一年の季節が織り込まれた形で、彼らの生活のリズムはつくりあげられている。

一方貧困な低カースト・インフォーマントも山に住んでいるが、山のマガル・インフォーマントと比較して、その生活を構成する資源のセットはかなり異なっている。山からおりたマガル・インフォーマントのように要素の数が少なく、そこで利用されている資源の数もきわめて少ない。生活の要素が異なる要因としては、文化的、歴史的背景が作り上げてきた生活様式の違いによる部分もあるだろうが、このインフォーマントの場合は、社会的地位が低く経済的にもかなり逼迫しており、そのために条件の悪い土地に住み不足する資源を外から何とかして確保していかないといけない、という状態になっているといえよう。そしてそのために現金支出が大きくなり、日銭を稼ぐ仕事をして何とか日々を送っている。

② 村で生活するために、特に必要不可欠と捉えられている資源は？

生活を成り立たせている要素の中でも、特に村で暮らしていくにはこれだけは確保したい、というような資源はあるだろうか？ 今回の調査では、裕福なバフンから分益小作で水牛を預かっている貧困な低カースト・インフォーマントや、借金までして資金をつくり、牛を買った貧困なバフン・インフォーマントの姿が見られた。また、現在はほとんど農業から離れている山から下りたマガル・インフォーマントも、「エサが十分手に入るならば牛を飼いたい」と言っている。このように貧困な世帯や農業にあまり従事しない世帯も牛や水牛を飼いたいと思っていることから、牛、水牛が村で生活するに当たって非常に重要な役割を果た

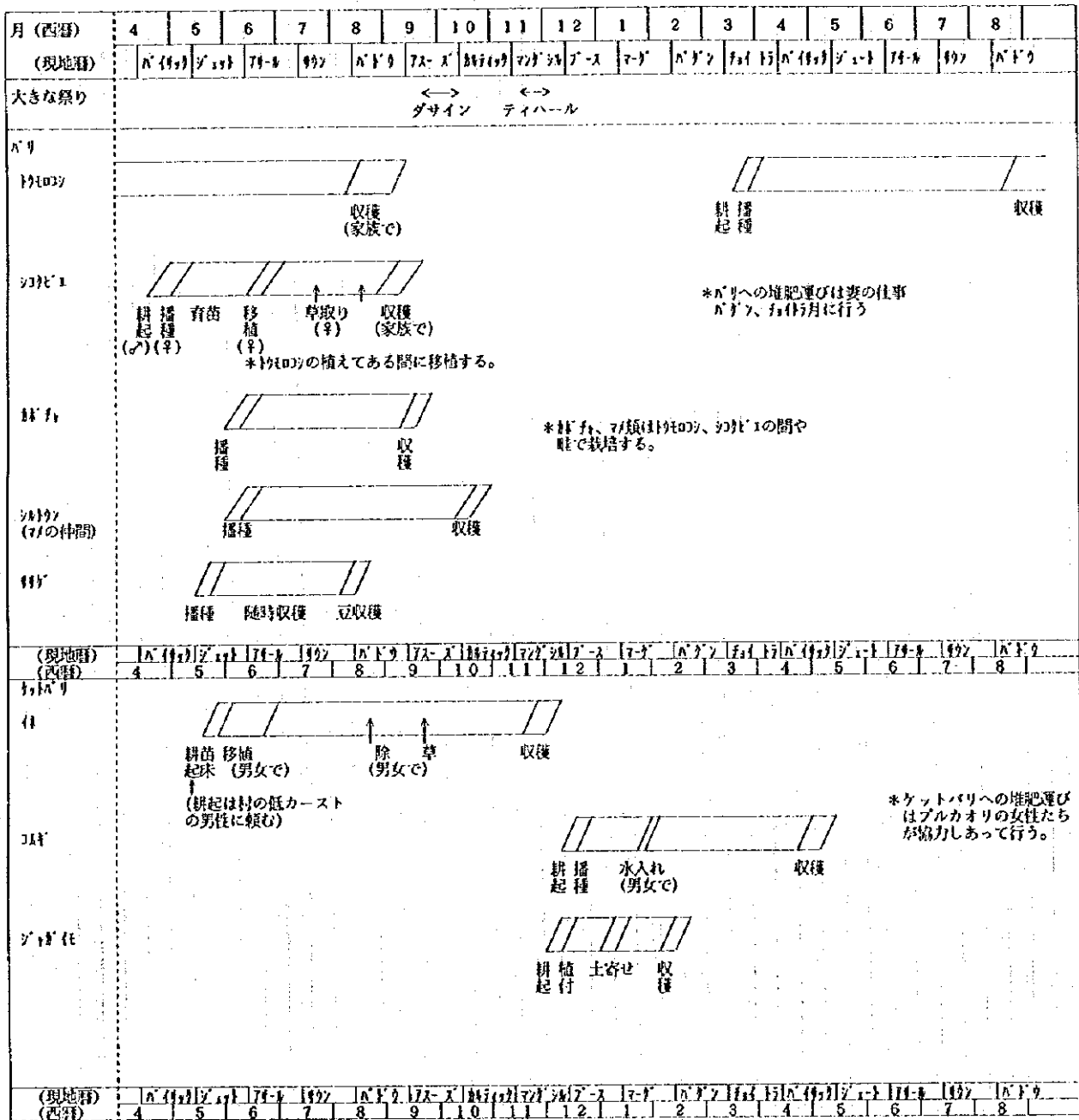


図4-4 山のマール・インフォーマントの農作業暦

していることが推察される。

牛、水牛は、その乳を飲むことができる。また、乳から、ヨーグルト、ギーなどを加工することもできる。また、その糞は化学肥料がまだそれほど席卷していない当地では堆肥として非常に重要であり、貧困なバフン・インフォーマント妻に一日の仕事を聞いたところ、「牛の糞を集める」という項目が独立して一日に2回もあらわれてきている。また、牛、水牛のもう一つ重要な役割は、役畜としてである。畑は、2頭立ての牛で引くスキで男性が耕すようになっている。自分の牛がないと、だれかに借りないといけなくなる。しかし1頭でもっていると、もう一人牛を一頭もっている仲間を見つけて、一緒に耕すことも可能となる。

しかし、生活に不可欠と村人自身に思われる要素も、唯一普遍のものではない。それは属性によっても異なるだろうし、また、時の流れによっても変わっていく。灌漑畑を所有して水稻をつくりたい、という要望は、以前は今ほど強くなかったのではないだろうか？ ショクビエ、トウモロコシのほうが重要な主食であっただろう。しかし現在、水稻作への村人たちの志向はかなり強くなってきているように見える。

自給でまかないきれない資源が増え、食料の購入、衣類の購入、燃料の購入、また子どもの教育など、現金による出費が増えるに従って、現金を獲得するための活動の比重が、生活を成り立たせていくための要素として大きくなっていく。山のマガール・インフォーマント世帯が住む集落でも、インフォーマント夫の話では、半分ほどの家の男性はインド軍などで若い頃働き、帰国してからは年金をもらっている。そのような退役軍人たちは、集落のために公共の施設などをつくって寄付することもあり、出稼ぎはそれなりの能ある男ならば行けるもの、と考えられている節もある。そのため、ここでは出稼ぎが生活を成り立たせていくための必要な要素と考えられている可能性もある。それを見極めるには、家族員のだれもが出稼ぎに行かず山の生活を成り立たせている世帯の生活の仕組みを詳細に調査することが必要だろう。今回は残念ながら時間不足のためにそこまでインフォーマントを広げることができなかった。

2) 生活を構成する仕組みはインフォーマントの属性によりどのように異なるか？

① 生活を構成する要素のバリエーション

これまでの項でもいくらか述べてきたが、生活を成り立たせる要素、必要と思われる資源のセットはさまざまな属性によって違う可能性もある。例えば、生活資源カタログをまとめて一覧表にした表4-6と表4-7を見ると、山のマガール・インフォーマントは資源の利用の範囲が広く、自生植物に関する知識が深く、また、一つの植物をその特質をしっかりと把握して多目的に利用していることが分かる。一方裕福なバフン・インフォーマントは、商品価値の高い栽培植物を主に栽培しており、所有する土地の中に自生植物はほとんどないし、利用も燃料としてのみである。また、一つの植物の利用の幅も狭い。このような地域で農業開発を考えるときに、前者のような自生植物を多く利用する人にとっては、未耕地を開墾することと、それによって自生植物の入手できる場所が減少することのバランスが重要になるだろう。そのバランスを彼らはどのようにとってきたか、そしてそれがどう変化してきたか、在来のシステム、価値観の変化の把握によるそのシステムの変化を把握することも重要だろう。

表 4-6 山のマガール・インフォーマーの利用する植物資源一覧

植物名 (和名)	(学名)	(科名)	用途/生薬用途	木はこぼれが丸葉	葉はこぼれが丸葉	木が示した	葉が示した	果実が示した	根が示した	根切込み	加工法	部位	形状	その他用法	植物名 (学名)	備考
Uta			木	●	●	●	●									
Ban			木	●	●	●	●									
Sana			木	●	●	●	●									
Bano			木	●	●	●	●									
Lup			木	●	●	●	●									
Babe			木	●	●	●	●									
Bodi			木	●	●	●	●									
Bokjar			木	●	●	●	●									
Casacil			木	●	●	●	●									
Borani			木	●	●	●	●									
Puero			木	●	●	●	●									
Cobro			木	●	●	●	●									
Cobot			木	●	●	●	●									
Polandil			木	●	●	●	●									
Lakli			木	●	●	●	●									
Lero			木	●	●	●	●									
Dalls			木	●	●	●	●									
Diree			木	●	●	●	●									
Joco			木	●	●	●	●									
Beral			木	●	●	●	●									
Luhuro			木	●	●	●	●									
Sop			木	●	●	●	●									
Kusi			木	●	●	●	●									
Bera			木	●	●	●	●									
Bomola			木	●	●	●	●									
Pali			木	●	●	●	●									
Zaujar			木	●	●	●	●									
Soli			木	●	●	●	●									
Sajaba			木	●	●	●	●									
Shitar			木	●	●	●	●									
Tote			木	●	●	●	●									
Galame			木	●	●	●	●									
Dula			木	●	●	●	●									
Labri			木	●	●	●	●									
Pipila			木	●	●	●	●									
Jera			木	●	●	●	●									

和名(漢字)	(ローマ字)	(英名)	果形/食用部分	木(又は竹)の用途	葉(又は根)の用途	花(又は実)の用途	大の葉した	葉の大きさ	葉の厚さ	果実	葉柄	花柄	葉の形状	葉の長さ	葉の幅	葉の厚さ	葉の長さ	葉の幅	葉の厚さ	葉の長さ	葉の幅	葉の厚さ	葉の長さ	葉の幅	葉の厚さ
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						
ハハコ		ハハコ	果実																						

● : 自生植物
 W : 葉が指摘
 H : 花が指摘

表 4-7 裕福なバフィン・インフオーマントの利用する植物資源一覧

植物名 (和名)	(学名)	分布/生育場所	天候/土壌/肥料	葉はたけ/根はたけ	茎はたけ/皮はたけ	果はたけ/実	葉がく	果がく	実がく	葉がく	果がく	実がく	葉がく	果がく	実がく	葉がく	果がく	実がく
Cuba																		
Aziadi																		
Akababa																		
Espeli																		
Esapeli																		
Guanat Dool																		
Utsari																		
Yaula																		
Akilo																		
Belantzi																		
Zalzi																		
Iten																		
Uch																		
Yara																		
Yika																		
Zaula																		
Quirada																		
Cebro																		
Uvela																		
Zauli																		
Sveff																		
Mila																		
Sajim																		
Bar																		
Chibac																		
Gai Giel																		
Uitiro																		
Yroca																		
Uant baco																		
Kavli																		
Uan baco																		
Uag																		
Uantlap																		
Ura																		
Uaro																		
Koadivi																		

植物名 (和名)	(学名)	科名/属名	大はたの里が産する	妻はたの里が産する	文示した	妻が示した	利用法	食用	薬用	燃料	肥料	その他用途	植物名 (学名)	備考
Quercus			○	○			W							
Quercus	クワシノ木		○	○			W							大はたの里産と信濃、妻はたの里産と信濃
Quercus	クワシノ木		○	○			W							大はたの里産と信濃、妻はたの里産と信濃
Azalea			○	○										
Cer			○	○										
Salix	ヤナギ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			WH							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			WH							大はたの里産と信濃、妻はたの里産と信濃
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			WH							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			WH							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			WH							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			WH							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			WH							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			WH							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			W							
Castan	トナリ		○	○			WH							

○ : 自生植物
 W : 妻が指摘
 H : 夫が指摘

このように、生活の仕組みはそのインフォーマントの属性によって異なる可能性があり、そのために、土地利用形態、利用資源の種類や利用範囲の違いもでてくる。もちろんどのような生活がより良いと考えるかの価値基準も異なるだろう。これは、住民の属性の違いによって開発のひとつの新しい投入が与える意味が異なる可能性があることを示しており、その点からも、どのような属性の人たちがどのような暮らし方をしているかを把握することが、重要となる。

② 生活のバリエーションの原因は何か？

生活を構成する資源やその利用法に相違が見られるとき、その違いの原因は何なのだろうか？各人の性格によるものだろうか、その地域での暮らしの中でつくられてきた、民族や宗教、地域などに独特なものだろうか？ それとも、ある資源へのアクセスがない、お金がないなどの外的な圧力から、しかたなくそのような形を対抗策として取るようになってきたのだろうか？

外的圧力のため、しかたない形であらわれてくる生活の成り立ちの違いを見てみると、例えば富裕なバフン・インフォーマントは日当たりのよい緩やかな傾斜の土地をたくさん持っているが、貧困なバフン・インフォーマントや貧困な低カースト・インフォーマントは、傾斜のきつい北向きの石だらけの耕地しか持っていなかった。そのために、栽培できる作物も異なってくるし、収量も違ってくる。

また、先に述べたように、同じ山に住むと言っても山のマガール・インフォーマントと貧困な低カースト・インフォーマントでは、利用する資源がずいぶん異なり、低カースト・インフォーマントの利用する資源はその種類も規模もとても小さかったが、これは貧困や低カーストという社会経済的不利な条件のために、このような利用できる資源の範囲が狭く、ほとんど自分でまかなえない、という形になっているためと思われる。

● 文化の違いか、外的な圧力による違いか

このように生活を成り立たせるための利用資源のセットにバリエーションが見られる場合、それが生活文化の違いなのか、外的な圧力に迫られての仕方ない対応策なのかを見極める必要があるだろう。しかし、その生活文化も、外的な圧力に順応しながら培われてきたものもあるだろうし、その境界ははっきりしない。住人自身が肯定的に評価するか（自分の個性として、あるいは自分の属するグループの特質、文化として肯定的に受け入れている）、あるいは、否定的ないしは消極的に評価するかが分かれ目になるのかもしれない。しかし、外的に与えられた不利な状況を甘受するために、これは自分たちの文化であるから、これまでこうしてきたから、などとなかば諦めのもとに正当化してしまうこともありうるし、それに対し、外部者（プロジェクト関係者など）がどう判断するかには慎重さが求められるだろう。

3) この仕組みを維持しているのは誰か？

生活を成り立たせる要素を確保し、利用している実質的な担い手は誰だろうか？その担い手は、家族の中で、社会の中でどのような位置づけにあるのだろうか。

① 世帯の中での役割分担

山のマガール・インフォーマントでは、夫は数年前までインド軍で働いていたために長い間不在だった。そのため、田畑で作業をし、家畜の世話をし、森林から薪や飼料をとったりなどの生活を支える実質的な作業をしているのは妻であった。夫は帰国してからは、土地、家畜や収穫物の購入／販売を決定したり、親族集団やコミュニティなどでの話し合いに参加するなど、渉外と経営決定の部分を握っている。妻は実質的に生活を支える活動の担い手でありながら、地酒づくりや、ミルクなどを近隣の人とやりとりすることによって得られるわずかな現金しか管理することはできないでいるし、会合などに出ることもない。しかし、だからといって妻が家族の中で虐げられているかということ、そうでもない。家族や客人に食事をよそい、その食べている姿を眺めやっている姿は、家の女主人としての誇りが感じられた。また、家族もそのような彼女を認め、娘に限らず息子もよく手伝っているようであった。

山を下りたマガール・インフォーマント妻も、山にいたときは山のマガール・インフォーマントの妻と同様な暮らしぶりであったが、山を下りて夫と二人で暮らせるようになってから、自分が家計を管理できるようになった。これには姑と同居しないで良くなった夫婦世帯の気楽さも大きく影響しているだろうが、バザールの暮らしそのものが、自分の体を使うことによって生活に必要なさまざまな資源を確保していかざるをえなかった山の暮らしと比べると、現金に多く頼る代わりに自由度が高いといえるかもしれない。

裕福なバフン・インフォーマントの場合、家族労働だけでは足りない部分を低カースト層や貧困層の労働力でまかなっている部分も大きい。水くみ、薪集めはそのようにして外部化している。また家屋の建築、家具作り、工芸品作り等も低カースト層に任せている。家族の間では、店の経営は息子に任せているということだが、客に出す食事の準備は妻がしきり、店番も時々行っている。店を開くことを提案したのは妻である。夫は田畑のあるベウリバス村に頻繁に出かけ、家畜の飼料集め、現在行われている灌漑プロジェクトの現場監督作業等を行っている。このように夫が外出していることが多いので、飲食店経営からの収入は妻が管理しているが、夫と相談して遣いみちは決めているという。しかし、日常のこまごまとした支出は妻が決定しており、夫に相談なしに高価な避妊手術を受けていることなどからも、かなり自由になる金があるように見受けられた。

貧困な世帯の場合、どのような分担がなされているだろうか。貧困なバフン・インフォーマントの場合、畑仕事、家畜の世話、家事、などは妻の分担であり、夫は家の建設、石割りや他人の土地での畑仕事等の賃金労働や竹のカゴづくりなどを行っている。妻も他の人の農業の手伝いにでることもある。この妻は、山のマガール・インフォーマントの妻が手にできる牛の乳などの小遣いも自分の手にできないでいる。生活に困窮し、現金が右から左へと流れる中、何しろ手に入った金はすべて家計に回されているようである。そして家計は夫が握っている。

貧困な低カースト・インフォーマントの場合も、上記の貧困なバフンと似たような状況のようである。妻は畑仕事や家事を担当し、夫は日雇いの賃金労働が主な仕事となっている。妻も収入になるような仕事をしたいが、家での仕事も多く難しい。だが、食糧が底をついてしまった時は、妻も他人の畑での妻の耕作等をして、日雇い賃を稼ぐ。だが、賃金には男女

差があり、男性の半分の賃金の、1日に20ルピーほどで、しかも男性のように食事はつかない。この世帯の娘は婚出していたが、夫が酒やトランプにおぼれ、家庭内暴力も激しいことから、実家に戻ってきてしまった。このような状況を生み出しているのは何なのだろうか。経済的に貧窮した状況から来る心理的圧迫をさらに立場の弱い女性に向けているのかとも思われ、貧困がより社会的弱者である女性の立場を苦しくしていることも考えられる。

このように並べてみると、世帯の属性や生活の環境によっても生活を支えるための家族員間の役割分担は異なっているが、畑仕事を担当し、その他生活に必要な資源（薪、水など）の確保や家事労働は妻が担当していることが多く、夫は現金を獲得するための仕事や渉外的な交渉事を担当していることが多いように見られる。これには、現金を得る仕事は男性のほうがその機会が多く、また同一な仕事でも賃金に男女の大きな格差があることも影響している。女性はこのように内部化された労働に従事することが多いため、構造的に現金を手に入れる機会が少ない状況になっているし、自由にできる金はほとんどないことが多い。貧困層の場合は、貧困でありながら自給できない資源が多く現金に頼らざるを得ない部分も大きい。現金収入はすべてが家計に回されてしまう。また、何しろいろいろな手段を通して自分の体を資本に生活を成り立たせて行かねばならないので、非常に多忙であり、また女性は農作業などの家の外での仕事の上に、調理など家の中の仕事もあり、その多忙さは輪をかけたものになっている。

一方、山を下りたマガール・インフォーマントや裕福なバフン・インフォーマントでは、かなり妻の自由裁量の部分が大きくなっている。裕福なバフン・インフォーマントの場合、労働の一部が外部化されていることもあり、家族員は経営者としての立場が強い。そのため、家庭の采配者としての妻の役割が大きくなっているのではないだろうか？また、両者とも夫の生家を離れ、夫婦家族、核家族として生活していることも、かなり生活の自由度を増やしている要因であると思われる。

② 再生産される女性の忙しさ

どのインフォーマント妻に聞いても、結婚して以後とても忙しくなり、休憩など取る暇もなくなったというのであった。姑たちは、それまで嫁として主婦として農作業、薪集め、飼料集め、家事、非常に多忙な日々を送ってきたので、早く嫁が来て自分が隠居できることを望んでいる。山のマガール・インフォーマント妻も「早く働き手としての嫁が来てほしい、下におりて楽な暮らしがしたい」と感じている。彼女は自分の姑が恐かったことを思い出し、優しい姑にはなりたいと思っているが、隠居をすることで、自分が送ってきたと同じように嫁が多忙になることについては意識していない。また、多妻婚をしているあるマガール男性の二人の妻たちの活動を見ると、年長者の方は対外的なつきあいなどを主に担当し、若い新しい妻のほうが農作業、家事労働など生活を実質的に支える活動をおこなっていた。そのほか、娘にいろいろな家事を手伝わせるなど、これを女性が一人前の働き手となっていく過程として捉える見かたもあるだろうが、やはり女性の多忙な労働は、多くの場合女性たちの間で再生産され、結局いつまでたってもその忙しさが変わっていかない現実は見落とされるものではないだろう。

そのような女性たちにとって、実家は大きな慰めとなっているようである。マイト

(maito: 妻の生家のこと) への年に何回かの里帰り、マイトからの果物などのおみやげは待ち望まれている。嫁に行った娘と実家、あるいは母親の間での絆はかなり強いようであり、前述の貧困な低カースト・インフォーマントの娘のように夫の暴力に耐えきれず、実家に戻って暮らしているケースも見られた。

● 生活を実質的に支えている人々の声を反映する

女性は男性よりその仕事が内部的であるが、家事、生活に必要な資源の確保、農作業など、実質的に支えている部分が大きく、またそのために遊ぶ時間もないほどに多忙であることが多い。例えば、山のマガール・インフォーマントの場合、夫はかなり自由な時間があって私たちのインタビューにも余裕を持ってつきあってくれたが、妻は仕事で忙しいので話をしている暇はない、と言うところをお願いし、調査のために失われる労働の相当額をこちらで埋め合わせるというかたちでようやく時間をとってもらえた。このように生活を実質的に担っているが、しかしその労働が内部的であり、また多忙で集会などに出る時間もないために(女性たちが集会などに出ないのには、社会・慣習的要因ももちろん大きい)、女性たちが果たしている役割がよく見えてこない。しかし開発行為などの活動の実質的な担い手となるのはそのような働き手である女性たちであることも多いのである。このような現状をしっかりと把握し、実質的な担い手の意見を計画に十分に反映することがとても重要なこととなるだろう。

4) 村での生活を成り立たせるための人々の関係性

完全に閉鎖的な自給生活を送っている人は現在いないといっただろう。私たちは何らかの形で、自分たちだけでまかなえない部分を他の人たちとの関係によって補っている。そのため、これまで説明してきた生活の基本形も、それを補う外部者との関係を掴んで、ようやくインフォーマントの生活の形が見えてくることになる。自給できない資源は贈与、交換や、貸借、売買によって入手される。また、不足する労働力は労働交換や、雇用によって補われる。その時の交換の比率はまた、当事者間関係でも異なってくる。その利害関係によって協同、対抗、依存、搾取、抑圧、無関心など、さまざまな関係ができてくる。このような関係性を知ることが地域の人々とのどのような関わり方をしていけばよいか、を考えるための重要な材料ともなる。

① 資源の共有、交換、売買

例えば、山のマガール・インフォーマント世帯では、日常的に使う野菜や調味料などは、妻が近隣の女性たちと融通しあって補っている。豚など家畜を売買したり貸借したりするときには夫が近隣の世帯と交渉してやりとりすることが多いようである。また、シコクビエはロキシー作りと食べるのと両方なので買わないといけないが、それも集落内の近隣の人から買っている。

この近隣者のなかで、血縁関係でも結ばれているもっとも近しい血縁集団を山のマガール・インフォーマントはプルカオリ (purkauli) と呼んでいた(一部山から下りて離れてしまっている家族もある)。インフォーマントの属するプルカオリは共有の森も所有しており、その利用はプルカオリの男性の間で話し合われ、決定されている。家の建築など、たくさんの労働力があるときにもプルカオリの中で協力しあっている(しかし最近では、現金を支払って専門の大工に建築を依頼することも増えてきたそうである)。また、自分の森でなくても、

木の実や雑木等を多少取る分には、別に文句も出ない。このようなブルカオリの中での協同の強さは、またマガール族がインド傭兵のグルカ兵の中でも、特に団結力に優れ、質が高いとされてきたゆえんともなっている¹。

② 定期市（ハート：Hat）、バザール

ブルカオリや近隣の人たちとの間で調達しきれない食品や工業製品などは、下のバザールで夫か長男が買ってくる。この村近辺には定期市がないため、野菜など自家生産物を気軽に売る場がない。ネパールの他の地域の定期市では、女性たちが活発に野菜などを売っている姿が見られるようであるが、この地域ではそのように女性が自分の生産物を販売して現金を得る場がないため、インフォーマントの妻は近隣の人たちにロキシーなどを売ることによって現金を得ている。穀類、調味料、ジャガイモ、タマネギ、トウガラシ、卵など保存の利くものはバザールの店にも並べられているが、野菜などは、週に2回バザールの広場に引き売りがやって来て売っている。彼らは遠くテライからやってくるのことであった。そのような遠いところからやってきても儲けが出るほどに、ここでは野菜などの需要が高く、よい値で売れるということなのだろうか。

パンを数個だけもって、バザール近辺を売り歩いている隣村の男性も見かけた。また、バザールの街道沿いに家を構える人たちの多くが、店と呼べないほどの小さな規模ではあっても、なにがしかの品物を置いて（タバコ、ビスケット、ロキシーなど）いる。村人たちは、このようにいろいろな機会を捉えて、現金を得ようとしている。

時に、歩いて片道3時間のワリンの町まで買い出しに行くこともある（ワリンの方が工業製品は安い）。裕福なバフン・インフォーマントは食堂もやっていることから、燃料の消費量が多い。そのためケロシン油を調理に用いているが、その値段がワリンの方が安いから、とワリンまで買いに行っている。

③ 属性や生活環境の違いによる外部者との相互関係性の違い

生活の環境が異なると、資源の確保の方法や人間関係も変化してくる。山から下りたマガール・インフォーマントは自分の属するブルカオリの仲間と離れて暮らしている。地理的に離れてしまった分、山のマガール・インフォーマントにみられるような日常的なブルカオリ・メンバーとの相互扶助は弱まっている。そのかわりに、この世帯の妻は血のつながりのないバザールの近隣の人と協力しあうようになってきた。また、山から下りたことで森も遠くなり、自分の森に燃料を取りに行くのは大変になった。そのため、バザールの近くにある他の人の森の立木の利用権を買って、その枝を打って燃料として利用するようになった。

● 他者との関係に大きく依存せざるを得ない貧困者、社会的弱者

貧困な世帯の場合は、自給できる資源が少ないため、とりわけ他の人との関係性が重要になっている（詳しくは貧困層の問題の項 132P～を参照のこと）。彼らは働きに出ている世帯のもつ森の下草を刈らせてもらったり、家畜を分益小作させてもらったりして、なんとか生活に必要な資源を確保しようとしている。高カーストであるバフンのインフォーマントも低カーストであるカミのインフォーマントもその関係性は似ている。バフンの場合は、ワード8に住む裕福なマガールの世帯に、カミの場合は、同じ村の低地のチルワ集落に住むバフンの世帯に労働を提供することによって資源を分けてもらいながら生活を

成り立たせている部分がある。また、裕福なバフン・インフォーマントの経営する旅籠では、兄に家や土地をとられ、住む所、自活する術を失ったマガール族の中年にも達する男性が結婚もせずに住み込みで働いていた。

このような貧困者、あるいは低カースト世帯と裕福な世帯との相互依存関係は広く見られた。裕福なバフン・インフォーマントの場合、前述のように家族労働だけではまかなえない部分を低カースト層や貧困層の村人で補っている。水汲み等は旅籠で寝泊まりしている男性の使用人に、薪拾いは日雇い人夫に、また家屋の建築、家具作り、工芸品作り等も低カースト層に任せている。低カーストへの仕事の外注は、バフンのみならずマガール族のインフォーマントにも見られた。山のマガール・インフォーマントは、畑の耕起や工芸品作りは同じ集落に住むサルキ（不可触カーストの1つ）の男性に頼んでいる。この男性が最近年を取ってきて、できる仕事量が少なくなってきたことを気にかけている。また、山から下りたマガール・インフォーマント妻も、雑用などを低カーストの女性に頼むことがあるようであった。

● 庇護か、相互依存か、搾取か？

低カーストグループとバフンなど上位階層に位置するグループは、社会的強者と弱者であり、かつ生活での相互依存性を帯びている。例えば、ベウリバス村のワード9では、それぞれの集落はワード内ではっきりと分かれている。低カーストの世帯は、生活の必需品である水牛や牛をバフンから借り、餌やり、水やりの世話を任される。1年内に子牛を産んだらそれを売って得た収入を半分に分ける。貧困な低カースト・インフォーマントは、家族が病気になった際の治療費をまかなうために、バフンから担保（灌漑畑）を借り、銀行から1,300ルピーを借りた。この借りを返済できないと、担保に出しているバフンの畑の一部が債権者にとられる代わりに、バフンとの従属的な関係がさらに強化されてしまうことも考えられる。

このような庇護とも、相互依存とも、搾取ともみられるような関係性は外部者の自分たちの物差しでは判断しきれない。裕福な者が貧困者を搾取している面もあるだろうが、彼らが貧困者を庇護している部分もあるものと思われるからである。

④ 住民が自分たちで認識するコミュニティ単位

上記のようなさまざまな関係性をもった人たちの間で、たとえば何かの目的のために組織をつくるとしたら、どのような結果になるだろうか？ベウリバス村のチルワ集落につくられた、マイラ・サモアとアマ・サモアという2つの女性グループが一つの事例になるだろう。これはワード内のコミュニティ・グループとされているが、実際はチルワ集落在住のバフンの女性のみで構成されている。このグループは地域振興や貧しい人達の生活改善に役立つような活動のためにつくられたものであるが、地域振興とは、つまりはバフンの生活の向上を意図したものであり、同じワード内の低カースト層の人々のことは考えられていない。行政的な単位ではワードが最小の地域区分であるが、実際の彼らの生活実感によるコミュニティ区分はワードの下の小集落（集落）にあったのである。その場合、コミュニティ単位としてワードを想定すると、その集団の中の強いグループが利権を独占するようになってしまうことも考えられる。このように、なにか住民組織をベースにした、あるいは住民組織の協力が

を知ることが重要になる。また、低カーストの女性インフォーマントの方では、読み書きができないためにグループに入れないと思っており、社会階層の差が教育へのアクセスなどさまざまな機会に影響を及ぼし、より格差を大きくしている現状も見られる。

(3) 基本型を満たせない人々の暮らし：貧困層と社会的弱者

貧困の問題が出てくるのは、すべての村人にとって生活に必要な資源が潤沢にあるわけではないことによる。その場合どのように対処していくかによって、貧困がどのようにあらわれてくるかが異なってくる。その方向性として、大まかに見て分かち合いによる貧困者への支援、社会的強者による資源の囲い込みと貧困者の締め出し、もう一つは低質、あるいは不安定な資源への利用の切り替えが見られる。

1) 分かち合いによる貧困者への援助のシステム

一つの方向としては、分かち合いによる、貧困者への援助である。これは例えば、山のマガールの森の中に誰もが利用しても良いとされる資源が存在したり、ダルマゴライ (dharma gorai：宗教的善行) としての、果樹や有用樹の公共の場への栽植や、退役軍人たちが資金を出し合ってコミュニティの共同水栓等を建設することなどにみられる。このような何らかの形による、現金を通さない相互扶助の関係はこれまで人々の暮らしを支えていくのに大きく役立ってきたと思われる。

また、貧困な低カースト層など自分で家畜を購入する経済力のない世帯では、家畜を借りて堆肥や子どもが生まれたときの売り上げなどは半々にする (エサや世話は自分持ち) ことにより、家畜の利用が可能となるアディア (adhiya) という分益小作制度が一般的に見られている。これは、飼養のために必要な飼料確保を考えると、半分も売り上げを取られることは割に合わないことかもしれないが、それでも自分で牛を飼うことできない貧困な世帯にその機会を与えるものではある。しかし、別の事例として、山のマガール・インフォーマントも牛を貸し出しているが、その貸出先である親戚の家族は何の見返りも要求されていない。親戚でなかったらアディアにするところだ、というインフォーマント夫の話から、分かち合いの程度も当事者の関係性によって段階をもっており、近い血縁者などの中から資源が得られない貧困者の場合、やはり条件の悪い契約をせざるを得ないことが想像される。

現金を通さずに資源を得る工夫として、貧困なバフン・インフォーマントは、妻が日頃農作業を手伝う家の持つ森の下草を刈らせてもらう、夫が働きに行った家の畑の草を刈らせてもらう (その分賃金からは差し引かれる) などして、家畜のエサを確保している。

借金にまみれた貧困なバフン・インフォーマントがそれでも牛と水牛を飼って、なんとか暮らしができていくという事実や、村人の30%はなにがしかの借金を抱えているが、夜逃げをする人はほとんどいないという話からは、外部者の目には簡単に見えない形で、貧困者が何らかの支援をどこからか受けているからとしか考えられない。不用意な開発行為によって、そのような相互互助システムが壊れていく恐れはないか、十分留意することが重要となる。

2) 資源の囲い込みによって閉め出される貧困者、社会的弱者

第2には、資源の囲い込みによる、貧困者、社会的弱者の排除である。これには、結果的に貧困者を閉め出す制度になっているコミュニティ・フォレストが典型的な例だろう。トリベニ

貧困者を閉め出す制度になっているコミュニティ・フォレストが典型的な例だろう。トリベニ村のコミュニティ・フォレストは森林乱伐を防ぐための森番を置いているので、その賃金を払うために、利用したい人は年会費を払わなければならない。それは年60ルピーで、経済的に余裕のある人にとっては大した金額ではないが、貧困なバフン・インフォーマント夫はその「年会費を払えないので、会員になっていない」と言う。おそらく彼は、自分の苦しい生計の中から60ルピーも払うことと、それで年にたった3日しか利用できないことを天秤に測って「もったいない」と判断したのだろうが、それでも、「会費が払えないからコミュニティフォレストは利用できない」という彼の言葉には、閉め出された、という実感がこもっている。また、貧困な低カースト・インフォーマントがコミュニティ・フォレストへ行かないのは、ワードが違う等の理由をつけられて入ることができないからである。そのため、彼らは国有林の境界外に落ちている枯れ枝を拾って薪にしている。このように、元来は森の乱伐を規制するために取り入れた制度が、結局貧困者を閉め出す結果となっているのである。

また、前項で紹介した、裕福なバフン・インフォーマント妻を中心にしてつくられたベウリバス村のワード9の女性グループは、実際のところメンバーは親戚関係を持ったバフンの女性のみで構成されている。このように、社会的にあるいは経済的に有利な立場にあるグループのほうがどうしても外部からの情報にすばやく反応し、利権を独り占めしようとする傾向は否めない。

中にはユダヤの人々のように土地所有などさまざまな権利を奪われてきたという逆境をバネとして結果的に多くの成功した商業家や優れた研究者、芸術家を出してきたような例²もあるだろうが、多くの場合、このような罫い込みは、除外された人をより苦しい状況に追いやる結果となる。

3) 低質な資源への切り替えによる対応

第3の方法は、より低質、あるいは不安定な資源への切り替えをすることによって、なんとか自分で対処していく手段である。貧困なバフン・インフォーマントは、条件の良い土地を次々と売って、自分は立地条件の悪い場所に移って住み、傾斜のきつい狭い耕地を耕している。このような対処法は、自分でなんとかやりくりできる部分ではあるが、それは生活の質の低下を意味するし、また傾斜のきつい耕地など不安定な資源を利用することによって、生活環境の悪化をもたらす可能性も高い。

4) 貧困層の見えない被害

生活環境の悪化によって貧困層が被る被害は、表から見えないことも多い。例えば、貧しいバフン・インフォーマントのわずかな水田は前年の土石流で埋められてしまっており、夫はその水田での耕作をあきらめた。また、屋敷地も鉄砲水の水道になって土石で埋められてしまい、その土石を取り除くには大変な労力が必要であった。このような事件の背景には、条件の良い土地から借金の形に他人に奪われていき、買い手もつかないような耕地しか自分たちには残らなかった現実がある。しかし、それでも耕さないと何も得られないことから、そのような石だらけの水田でも妻は今年もイネをつくらうと考えている。しかしこの土石流の被害は、村のデータ上ではカウントされず、村の土砂崩れ発生はゼロと記録されていた。村の概況を、村の代表者となるリーダー層や富裕層の住民に聞くだけでは本当のところが見えてこないのでは

る。環境の悪化などで一番先にそのしわ寄せを食うのは貧困層であり、それゆえに貧困層の人々の暮らしの状況は注意深く見つめる必要がある。このように表に姿が見えにくい人々の声を拾い上げる手法として、じっくりとインフォーマントの話の聞いていく形のオーラル・ヒストリー手法はひとつの有効な手段である。

困り込みにより稀少な資源へのアクセスから疎外され、次第に質の低い資源に切り替えていくうちに、貧困層住民は最終的には村で暮らせなくなり、あてどもなく都市に流れていくことにつながる可能性も高い。そのような貧困層にある人々が何らかの形で生活を立てていける可能性への地域の動きを捉えることは、困難な課題ではあるが、重要な視点だろう。

(4) 村の生活環境を把握する

1) 自然的環境の把握

これまでも述べたように、村人の生活は彼／彼女らの置かれた自然的環境、社会的環境に大きく規定されている。例えば、地域の地形、土性、気候、植生、水源の位置は、どのように土地を利用し、どのような作物を栽培するかを決定するのに大きく影響する。また一方で住人が人口圧などによって、自然的環境に過剰な負荷を与える利用を続けると、自然的環境は悪化し、災害が増えたり、再生不可能になったりもする。そうすると、人々の生活の質も悪化する。そのように自然的環境と人々の暮らしは密接に関連し合っており、地域の自然的環境の現状とその変化を把握することが重要になる。

自然的環境の把握にはさまざまなレベルがあるだろう。費用と時間を投入できるのならば、航空写真や、自然科学の専門家を投入しての科学的な分析も可能だろうし、そのような調査が必要となるプロジェクトもあるだろう。

しかし、もう一つのアプローチとして、地域の人々の知識をつづり合わせていく方法もある。105ページの図4-3は調査者の一人がインフォーマントと共に歩いて見えてきた景色を図に落としたものであり、あまり時間もかけずに作成したものであるが、インフォーマントが利用する自然的環境のイメージがつかめるものになっている。地域の人々がどのように地形、土性や植生を認識し、分類しているか、またその分類に合わせてどのように利用しているか、災害などの発生やその変化をどのように捉えているか等、地域の年長者などに話を聞き、それを既存の地図や踏査による簡易な地図に落とすだけで、かなり村人の実感に近い地域の自然環境の把握ができるのではないだろうか。このような手法については、デニストンらがアマゾンで先住民とともにおこなった地図づくりプロジェクト³や内田らがバングラデシュでバイクと自転車による踏査と、農民の知恵の聞き取りによって作り上げた水文環境地図⁴などの好事例がある。

2) 社会的環境を把握する

人々の生活は社会的環境にも大きく影響されている。社会経済階層や民族性によって、生活の形はある程度規定されるし、生活に必要な資源の確保の形は他の人々との関係性によっても異なってくる。幹線道路からの距離、情報へのアクセスの違いなどは、さまざまな機会へのアクセスの違いにつながってくる。村には、農業銀行があり融資をしているし、またVDCセクレタリーは行政関係のさまざまな情報を得て村人たちに流していると思われるが、そのような

情報はどのようなチャネルを通して流れているのだろうか？そのチャネルから構造的に外されてしまっている人々もいるのではないだろうか？また、政治制度や治安なども、住民の生活に大きく影響する。あるインフォーマントが一つの生活の形を持ち、なにかニーズを持っているとき、そのインフォーマントがどのような属性をもち、どのような背景によってそのような形やニーズを持っているかを知るには、社会的環境をある程度把握しておく必要がある。社会関係性は人々の資源確保のための相互扶助／交換の関係や、通婚圏、そのほか言葉の端々からくるニュアンスからつかめる部分も大きいですが、言葉などには簡単に現れてこない部分もあり、注意深さが必要となるだろう。

- (5) どのような暮らしを求めているのか：村人のニーズ、生活の基本的資源と生活志向の変化の把握
ニーズは特になにか新しい開発行為をするときなどに、必ず引っかかってくる問題である。住民のニーズを探る、住民のニーズをくみ取る、とよく言うが、住民のニーズとはいったい何なのだろうか？

生活をしていると、いろいろな必要や願望が生じてくる。それらには、それぞれ様々な動機があるし、その人の属性によっても異なってくる。また、そのような願望が生まれる背景には、情報を通しての新しい生活のスタイルなどの流入によって価値観が新しく生まれ、これまでよしとしてきたものが見捨てられていく過程もある。

1) 村で生活するための必要条件を満たすこと

ニーズのひとつに、村で生活していけるための必要条件を満たしていきたい、というものがあるだろう。例えば、先に述べたように借金をしても水牛と牛は飼いたい貧困なパフン・インフォーマントや、分益小作で水牛を飼う貧困な低カースト・インフォーマントを見ていると、牛や水牛はミルクを得るために、堆肥を得るために、そして畜力を得るために村での暮らしに不可欠なものではないか、と想像される。また、家畜を飼うには、十分な飼料木や草を提供できる森が必要となる。このような生活を支える基本要素の充足へのニーズがある。これは、一般的なニーズ・アンケートなどからは、現れてきづらいものかもしれないが、実質的に生活をやりくりしていくのに必要な要素である。

2) 社会的経済的な成功への願い

これに対し、より上のステップへ、社会的経済的に成功することへの欲求から来るニーズもあるだろう。インド軍傭兵などで出稼ぎして、月給や年金をもらいたい、バザールあるいはより低地のチトリンに土地を買いたい、という欲求は、村で頻繁に耳にしたニーズであった。

3) どのような変化の背景があるか：生活環境の悪化

ある人にニーズが生まれる背景には、その人をめぐる何らかの変化がある。例えば、森林資源の減少や耕地の表土流亡の加速化などの外的な生活環境の悪化による、作物の収量の減少、薪や飼料の不足や、それにとまなう自給資源や現金収入の減少などは確実に生活の質の低下をもたらし、そのためにその改善のための方策が求められることになる。また、何らかの理由で生活手段を失う場合（土地や資源を失う、働き手を失うなど）もある。生活に困窮してくると、借金先を探したり、日雇いの仕事を探したり、など切羽詰まったニーズとしてあらわれてくるようになる。とくに貧困層や社会的マイノリティの人々は生活環境の悪化を最初にかぶりや

すいにも拘わらず、他の人々と比較してじゅうぶんに対処できないことも多い。そこで、生活の改善などの目標をプログラムに落とししていくときには、そのような状況にある人々が何らかの形で自分の地域で生計を立てていける暮らし方の選択肢を探る視点が必要となるだろう。

4) どのような変化の背景があるか：価値観の変化

このような生活環境の悪化のために生じるニーズの他に、内因的な価値観の変化によって生じるニーズもある。他の地域からの新しい情報や物資の流入によって、新来のものへの欲求や、これまで培ってきたものの軽視などの意識の変化がおきる。例えば、従来の雑穀中心の食生活から米食への志向の変化や、自家採種の種子を利用し堆肥を利用した従来の農法から化学肥料／農業を用いた近代品種の栽培への志向、仲間うちでの共同作業による家の建築から専門の大工への外注への変化などがみられた。また、「山を下りて低地のバザールで暮らしたい」という願いは、これまで守ってきた山の生活が、近年増えてきたバザールでの生活と比べて彼らにとって魅力がなくなると見えてきたことの裏返しを意味するものだろう。

5) 属性によるニーズの違い

このようなニーズはインフォーマントの属性によっても異なる。社会・ジェンダー分析のグループインタビューでVDCセクレタリーのネットワークによって集められた、バフンを中心とした富裕層に属するひとびとは、道路、上水、河川の整備等の基本的ニーズに加えて、現金収入上昇のための改良農業技術の導入、養殖・養蜂の技術訓練への参加などを具体的にあげており、また、子供の教育や卒業後の進路等、長期的な将来展望をもった要望も強かった。これらは、経済的な上昇を通しての社会的地位の上昇志向を表しており、戦略的ニーズの色合いが濃い。一方貧困な低カースト・インフォーマントは、トイレ、上水整備などの基本的ニーズに加え、生活の収入源となる日々の仕事が安定的に確保できることと、日々の暮らしの生計をたてることで頭がいっぱいである。

地域住民のニーズを捉える、住民のニーズにあった計画を立てるといったときに、そのニーズにも多種多様なものがあり、それは各々の事情によっても異なることに留意する必要がある。活動の計画段階の地域の意見を収斂し一つの活動に絞り上げていく過程で、挙げられたさまざまなニーズのうち多くものは外されざるを得ないし、その決定の過程には、地域社会のパワー・ストラクチャーも少なからず作用する。それは、住民参加の手法を取っていようと、ある程度内容が先に決められたものであろうと、実施できる活動に限りがある限り、程度の差はあれ同様である。そこで、取り上げられたニーズや外されたニーズがどのような属性の人によるものか、そのニーズの背景は何なのか、を見極めることが重要になる。その背景を見極めるには、そのニーズを発した人々が現在どのような暮らし方をしている人々かを知ることが必要だろう。それによって、その現在の暮らしをどのように変えようとしてそのニーズが発せられたかが明らかになるからである。

6) ニーズを満たすことが結果的にどんな生活の質の変化をもたらすか

また、要望が実現されることによって実際彼らの生活の仕組み全体にとってどのような変化をもたらすことになるのかもある程度見通す必要がある。短期的に見るとともに、地域全体的に、また長期的に見ることが必要だろう。例えば、山のマッガール・インフォーマント妻は、もし下におりたら山の畑は他の人に任せるだろう、と言っている。すると日常的に利用できる資

源の量は大きく減ることになる。山を下りたマガール・インフォーマント妻は、山を下りて日々の労働は減り楽になったが、果物や野生植物の実などのごちそうを食べる機会が減ったことを惜んでいる。つらいこと、楽しいことを織りまぜて生活は作り上げられているもので、山を下りたことによって体は楽にはなったが、失ったものもあるのである。開発行為などで、何かを変え便利にしようとする、その傍らで何か失うことになるかもしれない。それは華やかな開発活動の陰に隠れて、「あまり大したことではない」、あるいは「遅れている部分がなくなってよかった」など見なされてしまうかもしれない。しかし、地域の人たちが長い年月を経て作り上げた知恵の体系である生活の様式は、十分に吟味、評価されるべきものであり、生活資源カタログはその物質的な側面を如実に語る記録となると思われる。

(6) 生活資源カタログ調査の利用の幅

1) 村人たちの生活知を記録し評価の材料とする。

生活資源カタログは、インフォーマントが利用している資源を写真というビジュアルな材料に落として記録しているものである。地域の人々が当然のように思っていたり、あまり重きを置いていない資源であっても、彼らが利用し、生活を構成する要素であれば全てを記録していく。そのために、カタログには生活の細やかな知恵が浮かび上がってくるし、また、とくに家族の生活を支える女性の知恵がにじみ出てくる。また、このとき調査者はインフォーマントから学ぶ立場となる。山のマガール・インフォーマント妻は、「自分には学歴がないからだめなんだ」、と言っていたが、身の回りの植物に関して家族の中で一番深い知識を持っているのは彼女であった。私たちが森で摘んできた数種類の植物をインフォーマント夫と息子に見せて、その名前を聞いたところ、「おかあさんが一番よく知っている」といって息子は調理中の母親のところにその植物を持っていった。このように、他の家族員もそのような自分の妻/母親の深い知識を認めている。学校で学ぶことだけが知識ではない。生活から作り出されてきた、しかしこれまで見落とされがちであった知恵の体系の一部を視覚的に記録し、再評価の材料とすることをカタログは意図している。

2) カタログ方式なのでいろいろなバリエーションに対応できる

また、山から下りたマガール・インフォーマント妻へは、山のマガール・インフォーマント妻から基本的な土地利用、資源利用を聞き取り、作成した生活資源カタログをもってインタビューをした。彼女はカタログの中の植物の写真をなつかしそうに眺め、カタログを見ながら自分が何をどのように使っていたか、いまは何を使わないようになったか、またなぜか、話し合うことができた。

このように、カタログは基本形を一つつくと、それをもとに他の人とも話し合うことができる。新しく得た情報によって加除修正することは自由であり、生活のバリエーション、変化を柔軟に捉えることが可能である。また、写真を用いた視覚的資料であるために、その利用と情報の共有化が比較的容易である点が利点であるといえよう。

自分たちの生活の成り立ちを自己認識・再評価することによって、初めてそのどこをどのように変えたいのかを本当に考えることができるのではないだろうか？

(7) オーラル・ヒストリー手法の試み

オーラル・ヒストリーはひとりのインフォーマントに、これまでの来し方や考えていることを振り返って話してもらい、それを書き取っていく手法である。いくつかの話のきっかけとなる質問をこちらでも用意し、その質問を核に、話を広げていくこともできる。先にも述べたように、集会など多数の人々が集まってくる場では発言が出にくい、また姿が表に見えにくい貧困者や社会的弱者、あるいは女性など地域のマイノリティーの人々の生活の現状、抱えている問題や要望を知るには、その人の言葉を追っていくオーラル・ヒストリーは有効な手段となる。

1) 現状はどのような過去の積み上げなのか？

生活資源カタログをはじめとして、農村生活総合調査は、調査時点での現状の把握に重点を置いて調査をおこなっている。オーラル・ヒストリーではそのような現時点の状況を切り取ったデータに、なぜ現在の状況となったか、その変化の経緯を説明する時系列的な情報を与えてくれる。また、インフォーマントがさまざまな出来事をどのように感じているかを知ることにより、そのインフォーマントやその背景となる地域のもの考え方、価値観やその変化が浮き上がっても来る。そのような点で、資源カタログなどの聞き取り調査をおこなったインフォーマントに対しオーラル・ヒストリーを聞き取りできると、生活の成り立ちがより立体感をもって分かるようになるだろう。

2) 村人たちはこれまでのいろいろな変化をどのように捉え、対応してきたか

また、とくに近年時代の流れが速く、さまざまな新しい物質、技術、情報がはやり、生活の仕組みが変わってきている。そのような変化や変化に対して人々はどう対応してきたか、またどのように対応したいと感じているかは、彼らのニーズを探る上でも有効な判断材料をくれることになる。

前述したが、山のマザール・インフォーマント妻に結婚してからの話を聞いたところ、「嫁になったら、忙しくて休む暇がなくなった、姑はあまり手伝ってくれないし、恐かった」と話してくれた。しかし、「自分の息子に嫁が来たらどうするか」と聞くと、「優しい姑になりたい」が、「これまで仕事を独りでできて大変だったので嫁が来たら仕事は嫁に任せて自分は楽隠居したい」という。このように時系列的に話を聞くと、嫁としての女性の忙しさが結局代替わりして引き継がれていく構造が見えてくる。

3) 現状に至るまでの個人的な要因と構造的な要因

また、貧困なバフン・インフォーマント夫に山を下りてからの話を聞いたところ、経済的な破綻の原因として、経営している店の売上げが貯まるたびにインドに暮らすインフォーマントの息子たちが再三家の現金を持ち去ってしまった、という個人的に不幸な経緯が浮かび上がってきた。そしていったん借金が貯まってくると、バザールの土地や肥沃度が高い土地など経済的価値の高い農地からどんどん借金の形として持っていかれてしまい、現在は斜度のきついほんの小さな天水畑しかもっていない。またその土地も表土流亡で年々生産性が落ちてきている。ここには、一度経済的に窮すると、どんどん不利な状況に追いやられていってしまう貧困化の構造の一部があらわれている。現在に至るまでのこのような経緯を知ることによって、インフォーマントの現在の困窮の原因が社会的、構造的なものなのか、個人的な特殊な理由によるものかが見えてくる。地域の貧困問題を考えるときにも、このように貧困世帯の経緯を聞く

ことによって、その地域に特有な構造的な問題点が見えてくるのではないだろうか。

4) オーラル・ヒストリー手法を取るときの留意点

今回の調査では、結果的には時間がとれず、十分な考察をするほどのデータとはならなかった。オーラル・ヒストリーの聞き取りには、語り手と調査者の間の信頼関係が必要となる。貧困なバザル・インフォーマント妻に聞き取りを試みたところ、彼女は非常に口が重く、最低限の言葉しかしゃべってくれなかった。これには、しゃべったところでつらい話しかでてこない、という思いもあるだろうし、また女性はあまり外で他人に話をしてはいけない、という考えがこの地域では強いようにも感じられた。短期間での調査のため、そのような彼女の警戒心を解くには時間が足りなかったということができよう。また、反対に貧困なバザル・インフォーマント夫は、山を下りてバザールで店を開きたいきさつなどを詳細に語ってくれたが、その言葉には自分を正当化したり、都合の悪い部分を持たないなどの意図的な内容の変更も感じられた。このような語り手の主観による事実の変更の危険性は、この手法の場合、十分ありえることである。話の中でつじつまが合わなくなってきたときに、その点について再度質問すると、明らかになってくることもあるし、周囲の人々への聞き取りなどによって、クロスチェックすることも必要となるだろう。

2-3 社会・ジェンダー分析手法の適用と調査結果

(1) 社会・ジェンダー調査分析手法

今後どのような形で農村総合生活調査と社会・ジェンダー調査・分析手法を関係づけていくかを検討する意味から、社会・ジェンダー調査/分析を以下のような形で行った。

1) 調査の方法

① プロジェクト対象地域社会の概況・多様な社会層の把握

事前に入手した資料、トリベニ村のVDCセクレタリーからの村の概況についての聞き取り調査や、JOCV協力隊員があらかじめ用意してくれたキー・インフォーマントになりうる世帯をいくつか訪問し、家族構成や暮らしの状況をおおまかに聞き、これを基にし、今回の調査対象農家選定の際の参考にした。

② バザールにおける男女混合ミーティング調査

VDCセクレタリーに協力を求め、男女数名集めてもらい、経済活動に関する基本的な情報を収集した。特にどのような生産・再生産・地域活動を誰が行っているのかを知ると同時に、男性が同席している場で女性も活発に発言するか、ミーティングに参加しているか、グループの意見をリードしているのはどんな人（性別、カースト、経済階層等）か、等のグループ・ダイナミックスを知ることが目的とした。

③ バザールにおける男女別ミーティング調査

上記の男女混合ミーティングでは、VDCセクレタリーに人を集めてもらったところ、その個人的なネットワークの人が集められたため、バザール中心部に住み、様々の役職に就いている、いわゆるエリート層が集められる結果となった。また、上記の男女混合ミーティング調査では、男性が意見をリードし、女性が発言しかけても途中で口をはさんでしまうなど、女性の生の意見が聞き難かった。そこで、女性も発言しやすく生の声が聞こえるように男女別の場を設けた。男性は5、6名集まってくれたが、女性は雨が激しく降ってきたこともあ

り、3名程度しか集まれなかった。

④ 山の上（ワード8）におけるマガール族住民への男女混合ミーティング

バザールでのミーティングと同様に、山の上（ワード8）のチンネカルカ集落に住む男性3名（最終的には6名）、女性2名に集まってもらい、聞き取り調査をおこなった。

⑤ 個別世帯調査

今回の調査のキー・インフォーマントは富裕層に属するバフンの世帯を中心に、そのかわり合いから低カーストの世帯も訪問し調査を行った。この調査で、世帯の基本的情報（家族員、生業、所有土地面積等）、資源利用状況把握のための資源カタログ調査、土地利用状況を知るためのマッピング、男女別生活時間帯調査、農業暦、ニーズ調査などの調査を行った。

2) 分析方法

上記の調査から得られたデータ（特にバザールでの山の下に住む人々を対象にした調査）を以下の項目に従い、分析を試みた。

① 男女別生産・再生産・地域活動

バザール周辺及びワード8の山に住む住民の様々の活動について、ジェンダー別に誰が何を行っているか、を把握する。生産活動とは、収入につながる活動であるが、ネパールの山村では必ずしも金銭的対価を伴うとはかぎらない。再生産活動とは、生産活動を行うのに必要な家事や育児に伴う活動のことである。これらの活動に加えて、住民が共有している森林、水の管理に関する活動や、地域社会そのものの維持運営を協議し決定していく地域活動も加えた。

② 男女別資源・便益へのアクセス・コントロール

この分析を通して、経済活動を行うのに必要な資源（土地、設備・資材、家畜、技術・訓練、資金、労働力等）や様々の便益（農産物、林産物、現金収入等）を誰が使用できるのか、誰が決定権や所有権を持っているのか、また、経済活動を通して生産もしくは生み出された便益の恩恵は誰がこうむるのか、等の把握を試みた。

③ 影響を及ぼす要因分析

収集されたデータをもとにバザール周辺在住の住民男女はどのような現状に置かれているのか、その現状を生み出している要因（文化的、社会的、経済的、政治的等）はなんであるのか、サブ・プロジェクト実施の際に働く制約/促進条件としてどんなことが想定されるか、左記の状況を最小限に留めるためにはどのような改善策が考えられるか、の把握を試みた。

(2) 社会・ジェンダー分析結果

1) 経済活動に関する状況分析

経済活動についてはバザールでの男女混合・男女別グループミーティングの参加者の発言とバザールで宿屋を営む裕福なバフン・インフォーマントへの聞き取りの結果を併せて分析したものが、表4-8である。また、山の上でマガール族の男女混合ミーティングと山に住むマガール・インフォーマントへの聞き取り調査の結果を併せて分析したものが表4-9である。後者の経済活動プロフィールは時間の不足から十分な分析はできなかった。

表4-8 経済活動プロフィール

トリベニ村 ワード9、アルトゥン・バザール (パフン、ネワール族、マカール族)

活動	ジェンダー		備考 ¹⁾
	男	女	
生産活動 (収入につながる活動)			
農業/土を耕す	●	▲	牛を使って
種まき	●	●	田植え
肥料やり	●	●	水牛の糞 (男女で作る)
水汲み	●	●	
水やり	●	●	
丘段作り	●	×	
除草	●	●	
収穫	●	●	
脱穀、精米	n. a.	●	女性は手でふるい
余剰分の販売	▲	▲	売る程余らない
農産物加工	●	●	菜種油、つけもの等
菜園/土を耕す	●	●	
種まき	●	●	
肥料やり	●	●	水牛の糞 (男女で作る)
水汲み	●	●	
水やり	●	●	
除草	●	●	
収穫	●	●	
余剰分の販売	▲	▲	売る程余らない
家畜/牧草地へ連れて行く	●	▲	
家畜の小屋作り	●	×	
飼い葉取り	●	●	
餌やり	●	●	
水やり	●	●	
水牛の乳絞	●	●	
乳酸品加工	●	●	ヨーグルト、モイ、バター等
養鶏	n. a.	n. a.	
販売	n. a.	n. a.	
植林・林業/ 個人で苗木育成	●	×	
グループで苗木育成	×	×	
苗木の購入	●	▲	ホテイヤ、フアスの苗畑で種購入 (マツ、Shiso、竹、マンゴ、ライチ等、自家で入手不可能な樹種)
苗木を山林から移植	×	×	
苗木に水やり	●	●	
木を植える	●	●	
木の開いを作る	●	×	
木の伐採	●	×	
木材の販売	×	×	
木の果実の販売	×	▲	村で一番広い面積を持つ家の妻
森へ薬草取り	▲	×	高い山にしか無いのでほとんど行かない。
森へ動物の狩猟	×	×	密林が無い、菜食なので。
森へ蜂蜜の採取	×	×	密林では無いので。
木材で家具作り	×	×	他のカーフトに作らせるか購入

活動	ジェンダー		備考
	男	女	
工芸品作り	×	×	他のカーストに作らせるか購入
食器作り	×	×	他のカーストに作らせるか購入
再生産活動			
薪取り	●	●	
料理	▲	●	妻が不在の時は夫も行うとの意見
掃除	▲	●	妻が不在の時は夫も行うとの意見
家の建築	▲	×	他のカーストに作らせる
洗濯	▲	●	妻が不在の時は夫も行うとの意見
燃料の購入	●	●	薪とケロシン (ワリンで購入)
食料の購入	▲	▲	ワリンで購入
日用品の購入	●	●	
地域活動			
女性や母の会	×	●	バフンの村チルワヤトリベニ2
灌漑用水建設	●	n. a.	ILO事業。ほとんどチルワが便益
共有林ユーザーグループ	●	▲	
公道作り・補修	●	●	
橋作り・補修	●	●	
給水施設の設置・補修	●	▲	男性が主に関わっていると考えられているが(石割り、石積み)、実際は女性も石を運ぶ等して参加。しかし、男女どちらも実際に労働するのは日雇いの低カーストの場合が多い。
寺の建設・補修	●	×	
学校校舎の建設	●	●	
流域管理工事	●	●	
村の行政、集い	●	×	

●：グループ・ミーティングで半数以上の人がやっていると答えたもの

▲：グループ・ミーティングで半数以下の人がやっていると答えたもの、あるいはグループ・ミーティングではやっていると言ったが、個別世帯調査でやっていると認められたもの。

×：グループ調査で、やらないとされ、また個別世帯調査でもやっていると認められなかったもの。

n. a.：確認できなかったもの。

備考：グループ・ミーティングの参加者からのコメント、あるいは個別世帯調査からの聞き取り及び観察からの注記事項。

考察：

*男女混合のミーティングでは、生産活動に加え、薪集め、掃除、料理、洗濯、水汲み等の再生産活動についても男性も時々行うという意見が男性から出された。しかし現地視察、女性ミーティング、資源調査、農業暦、生活時間帯調査結果からは、実際は女性の労働の投入の方が多いことがわかる。

*男性の仕事(石割り、石積み、家屋の建設、木を小さく切って割る等)は女性の仕事より難しく高度と考えられている。

*VDCセクレタリーにミーティングのため人集めを頼んだところ、彼のネットワークで集められた人ばかりで、高カーストのバフンやその他、村の役員が多かった。

表4-9 経済活動プロフィール
トリベニ村 ワード8 山の上 (マガール族)

活動	ジェンダー		備考 ¹⁾
	男	女	
生産活動 (収入につながる活動)			
農業/土を耕す	●	×	
種まき	●	●	
肥料やり	●	●	
水汲み	●	●	ホースで水を引っ張ってくる。
水やり	●	●	女性は運搬等の補助。経費節減。
丘段作り	●	▲	男性は補助。
除草	▲	●	
収穫	●	●	
余剰分の販売	▲	●	ほとんど女性が隣人に売る程度。
家畜よけの柵作り	●	×	
農産物加工	×	●	菜種油、つけもの、パン等。
菜園/土を耕す	×	●	
種まき	●	●	
肥料やり	▲	●	忙しい時、男が手伝うこともある。
水汲み	×	×	雨水利用。
水やり	×	×	
除草	×	●	
収穫	×	●	
余剰分の販売	×	●	ほとんど余らない。近隣の人を支援する
家畜よけの柵作り	●	×	
家畜/家畜の購入	●	×	夫が近所の人たちのところから購入。
牧草地へ連れて行く	●	●	
家畜の小屋作り	●	▲	材料の石や土の運搬は女性。
飼料採取	×	●	
餌やり	×	●	
水やり	×	●	ひまのある者が行く。
水牛の乳絞	●	●	
乳酸品加工	●	×	ギーを作っている。
養鶏	▲	●	夫が近くの家から購入。世話は妻。
販売	n. a.	n. a.	近所の人買いにきたら売る。
植林・林業/個人で苗木育成	×	×	
グループで苗木育成	×	×	
苗木の購入	×	×	
苗木を山林から移植	×	×	
苗木に水やり	×	×	
木を植える	×	×	天然更新
木の囲いを作る	●	×	家畜の好まない樹種 (チラウネ、竹)
木の伐採	●	×	扉等の建築材や薪

活動	ジェンダー		備考
	男	女	
木材の販売	×	×	自給用のみ
木の果実の販売	×	×	自給用のみ
森へ薬草取り	×	×	薬草等知らない。
森へ動物の狩猟	×	×	動物はいない。
森へ蜂蜜の採取	×	×	密林ではないので。
木材で家具作り	●	×	
炭作り	×	×	材をカミに渡し作らせる。
工芸品作り	●	●	藁のマット(女性)やドコ?(男性)。マットは自宅で、籠等は隣の家の人に作ってもらう。
食器作り	×	×	
再生産活動			
薪取り	×	●	週に2-3回
料理	×	●	娘も手伝う。
掃除	×	●	娘も手伝う。
家の建築	●	▲	女性は運搬等で補助。最近は大工に頼むことも増えてきた。
洗濯	×	●	各自で(小さい息子の分は洗ってやる)。
燃料の確保	●	●	森で拾い、ほとんど買わない。不足分は近所の人から分けてもら
食料の購入	●	●	夫等世帯主や息子が買う。妻は月に1,2度ロキシー用の砂糖等を購入するという意見もあり。
日用品の購入	●	●	夫か息子が購入するという意見あり。腕輪等の女性用の装飾品は売りに来る人がいる。
地域活動			
女性や母の会	n. a.	n. a.	
グループ活動	×	×	グループは無いが、結婚式等親族が集まって助け合う。ブルカオリ(近い親族)の女性同士で日用品、食糧等のやりとりをし、助け合う。
灌漑用水建設	n. a.	n. a.	
共有林ユース・グループ	n. a.	n. a.	
公道作り・補修	●	▲	女性は運搬等の補助。
橋作り・補修	n. a.	n. a.	
給水施設の設置・補修	●	▲	インド兵役の年金を資金に。女性は運搬等の補助。
寺の建設・補修	×	×	
村の話しあい	●	▲	全員で集まり公共の貯水タンクを設置。集会には夫のみが行くという意見もあり。
村の改善のための資金提供	●	▲	給水施設設置については1世帯につき3-3500Rp.の寄付。
村の改善のための労働提供	●	●	インド兵役の年金を資金に。女性は運搬等の補助。

●:グループ・ミーティングで半数以上の人やっていると答えたもの

▲:グループ・ミーティングで半数以下の人やっていると答えたもの、あるいはグループ・ミーティングではやっていると誰も答えていなかったが、個別世帯調査でやっていると認められたもの。

×:グループ調査で、やらないとされ、また個別世帯調査でもやっていると認められなかったもの。

n. a.:確認できなかったもの。

備考:グループ・ミーティングの参加者からのコメント、あるいは個別世帯調査からの聞き取り及び観察からの注記事項。

表4-10 アクセスとコントロール・プロフィール
トリベニ村 ワード9 アルトゥン・バザール

	アクセス			コントロール		
	男	女	備考 ¹⁾	男	女	備考
I. 資源						
土地／ 農耕地	●	●	夫婦共有の場合が多いが、中には夫の土地、妻の土地と分けている場合もある。	●	×	土地利用の最終決定は夫が下す。自分の家の所有土地面積が不明確である女性が見られた。
牧草地	●	●		●	×	
私有林	●	●		●	×	
家庭菜園	●	●		▲	▲	何を栽培するかは妻が決定するが、名義は夫。
共有林	●	●		n.a.	n.a.	
国有林	×	×		×	×	
設備・資材／						
農業用具	●	●	耕作するのに男性は水牛を使う	n.a.	n.a.	(確認されず)
苗畑用具	n.a.	●	ビニールポット等をバフンの女性グループは使用している。	n.a.	n.a.	
植林用具	n.a.	n.a.	(確認されず)	n.a.	n.a.	
家畜／ 水牛	●	●		n.a.	n.a.	
牛	●	●		n.a.	n.a.	
鶏	●	●		n.a.	n.a.	
訓練・技術指導／	×	▲	IL0による女性グループ組織化の事業により農業技術指導を受けたバフンの女性1名。	×	●	この女性は現在も会長として活動を継続。
融資・資金／	●	▲	女性は担保が無いので直接借りられないが、夫婦で相談して借りる家庭もあり。女性が借りられるのかわからない女性も。	●	▲	
労働力／	●	●	耕作、収穫、水汲み、家屋の建築等、高カーストは低カーストを雇う場合多い。	●	n.a.	
II. 便益						
農産物／ 主要作物	n.a.	n.a.		n.a.	n.a.	
野菜	n.a.	n.a.		n.a.	n.a.	
林産物／ 樹木	n.a.	n.a.		n.a.	n.a.	
果物	n.a.	n.a.		n.a.	n.a.	
現金収入／ 夫の収入	●	▲	兵役による年金からの一定の収入あり。財布は一緒という意見。	●	▲	
／ 妻の収入	×	×	ほとんどない。	n.a.	n.a.	

●：グループ・ミーティングで半数以上の人をやっていると答えたもの
▲：グループ・ミーティングで半数以下の人をやっていると答えたもの、あるいはグループ・ミーティングではやっていると誰も答えていなかったが、個別世帯調査でやっていると認められたもの。
×：グループ調査で、やらないとされ、また個別世帯調査でもやっていると認められなかったもの。
n.a.：確認できなかったもの。
備考¹⁾：グループ・ミーティングの参加者からのコメント、あるいは個別世帯調査からの聞き取り及び観察からの注記事項。

考察：

*融資に関する情報や訓練や技術指導等へのアクセスは、高カーストであるバフンに多い。また、融資借り受けについては直接女性は借りることができないが（担保である土地の名義が夫の名であるため）、夫婦で相談して借りているものもいれば（ADBから）、女性も借りられるのかどうかわからない女性もおり、女性の融資に関する情報へのアクセスは男性に比べて少ない。

*林産物の女性への便益は、世帯主妻が果樹等の苗木を購入し自家消費及び少々換金用に栽培している、所有土地面積の一番大きい世帯を除いてはほとんど見られなかった。

*現金収入は夫のインドにおける兵役からの年金のみで、農産物の余剰分の販売からの収入はほとんど無いと男女のどちらにも感じられている。

① 女性の労働負担

女性は生産活動、再生産活動、地域活動と、農家、農村を支えて行く上で重要な活動を多岐に亘って担っている。薪拾い、燃料や日用品の購入は男女が行うとしているが、高カーस्टで富裕層である家庭では労働者を雇って薪拾いをしている場合もある。料理、掃除、洗濯は、妻が不在の時、夫も行うこともあるが、日常は妻が行っている。

② 見えない女性の役割

公道・橋・給水施設・寺作りなど地域開発にかかる活動は男性が行うという意見であるが、実際は女性も重たい石を現場まで運ぶ等の作業を行っている。しかし、文化的・社会的にこのような活動は軽視され、女性の貢献度が見えないでいる。

③ 部族やカーस्टの違いで男女の役割に差異が見られる。

山の上に住むマガールの方がグループインタビューで集められたバザールに住む住民(村のエリート層に属する)よりもジェンダーの差異がある傾向が見られた。カーस्टの高いバフンやネワールの家庭では、男女が薪拾いや燃料・日用人の購入にあたり、料理、掃除洗濯も妻が不在の場合は夫も行うことがあるが、マガールでは薪取り、料理、掃除、洗濯は女性の仕事であり、木材や用材での家具作り、木の囲い、家屋の建築などは男性の仕事とはっきり分かれている。バザールに住む住民は家屋の建築、家具作り、工芸品等の活動は、自分では行わず低カーस्टを雇って行っており、バフンでは男性が自分たちで行っているが、最近ではバフンの間でも大工(ダマイ)に頼むことが増えている。マガール族は女性がマット作り、男性がドコ作りをしている。

バザール在住の男女住民は男性も女性も農業、菜園、家畜の世話などを行っているが、マガールにおいては農業活動は男女両方が関わっているが、菜園は主に女性が担っており、飼いやり、餌やり、水やり等の世話は女性が、家畜の購入、乳酸品製品(ギー)作りは男性が行っているというように、男女別の役割がよりはっきりしている。

2) アクセスとコントロールに関する状況分析

グループ・ミーティングに参加してくれたバザールの人々からの発言と、バフン・インフォーマントへの聞き取り調査から、資源や便益へのアクセスとコントロールをまとめたものが表4-10である。以下のようなことが把握され、ジェンダーやカーस्टによる違いが認められた。

- ① 女性も融資借り受けができるのかどうかわからない女性もおり、融資、訓練、技術指導に関する情報へのアクセスは男性に比べて少ない。
- ② 融資に関する情報や技術指導へのアクセスは、高カーस्टであるバフンに多く、融資借り受けについても直接女性が借りることができないが(担保である土地の名義が夫の名なので)、夫婦で相談して借りている場合もある。
- ③ 主な収入は夫のインドにおける兵役からの年金や日雇い労働作業からの賃金で、林産物の販売や農産物余剰分の販売からの収入はほとんど無い。労賃には男女による格差があり、妻の収入は男性に比べてほとんどない。財布は一緒という考えであり、夫の収入からの便益を女性も受けている。

3) 影響を及ぼす要因分析

上記の調査結果をまとめて、プロジェクトに影響を及ぼすであろう要因を分析したものが、「表4-11 影響を及ぼす要因分析」である。

表4-11 影響を及ぼす要因分析

調査結果	考えられる要因	プロジェクトへのインパクト	改善の可能性
女性は多忙で調査に必要な時間を十分割いてもらいにくかった。	女性は炊事、水汲み、掃除等の家事の他に、畑の仕事や家畜への餌やり、レストランの経営等、1日中多忙である。	男性や女性の生活時間帯や年間の行動状況を考慮しないで計画された活動には、住民が参加しないこともあり得る。	活動実施前に男女別の生活時間帯や通年の活動状況を調査し、比較的余裕のある季節や時間帯に活動を計画する。(12月中旬から3月中旬が比較的余裕があるという結果)。
ミーティングでは男性が発言することが多い。	男女同席の場では男性が発言し、女性は男性の意見に従うという習慣がある。	女性の意見、ニーズ、本音が反映されない危険性がある。	女性のみの場合を設定し、意見聴取を行う。
男女混合のミーティングには男性がより多く出席するケースが多い。	村の行政や地域開発・活動等について話し合うのは、男性の仕事と考える傾向がある。	村落振興活動に女性のニーズや意見が反映されない危険性がある。	女性のみの場合を設定し、意見聴取を行う
男女住民とのグループ・ミーティングに集まって来た人々は、役職付きの人など比較的村での富裕層、上部層の人々であり、貧困層や低カーストの人々は周囲に集まってきたものの、議論には参加できなかった。	副村長のネットワークにより集められ、そのネットワーク外の貧困層や低カースト層は無意識に除外された。	村長やVDCメンバーと連携しながら、ニーズ・問題調査や活動を進めることは重要であるが、対象地域の一部の意見しか反映されない危険性がある。	貧困層や低カースト、その他のグループからのニーズや意見も幅広くつかむためにも、別に場を設ける。
男性のほとんどは融資を利用しているが、女性で利用している人はいなかった。	担保となる土地の名義は男性のもので、名義を持たない女性は融資でのアクセスがない。また、融資制度に関する情報へのアクセスも男性に比べてきわめて少ない。	現金収入活動をしたい要望はあっても、女性は新たな活動を始めにくい。	女性の資金調達の可能性を調査するとともに、PCRW等の農村女性を対象にした融資プロジェクトとの連携を図る。
男性と女性とで示した栽培植物が異なる。	男女で利用の仕方及び認識が異なる。親から受け継ぐ知識が異なる。男女で役割が異なる。	通常の調査では世帯の代表として世帯主からのみ意見聴取する傾向にあるが、そうすると、偏った情報しか集まらず、暮らしのなりわいの全体的イメージがつかめない。	男性からだけでなく、女性からも植物利用や土地利用等の一連の調査を別に行い、各ニーズを反映させた活動計画を策定する。
山に住むマガールの社会では多くの植物を多目的に利用。富裕層のバブンは換金作物が多く、また、多目的利用も少ない。	カースト、民族間で植物の栽培種、数、利用目的が異なる。森林資源を含む天然資源との関わり方が、環境、暮らしのなりわい、伝統等により、異なっている可能性がある。	1つの社会グループからの聞き取り調査結果に基づいて計画された活動は、その便益が偏ったものになり、対象社会内での摩擦や新たな貧困化等、マイナス・影響もあり得る。	対象社会の多様性に着目し、各社会グループからの聞き取りを行う。
公道や学校建設は男性の仕事は女性も材料の石の運搬で関与している。	男性の行う作業(石割りや石あると認識され、賃金も男女格差がある。	女性が村落振興や地域開発の価値を得られない可能性もある。	男女の労働雇用に対する支払い賃金の額を同等にする。

2-4 社会・ジェンダー分析と農村生活総合調査の性格とデータのシェア、統合的利用の可能性

農村生活総合調査では、特定のインフォーマント世帯の生活の成り立ちを一つのセットとして描き出すアプローチを取っている。資源の利用の現状、他者との関係性、現在に至るまでの過去からの経緯などを聞き取りおよび踏査によって調査する。この調査によって得られるデータは、フットマップ、生活資源カタログ、生活時間表、農作業暦など、ある意味で生データに近く、また視覚的な資料を多用しているため、それ自体でもさまざまな用途で活用可能である。データとインフォーマントは1対1であるので特定でき、またその生活における物質的、あるいは可視的な部分を中心にデータを集めていることから、調査の反復性ももつ。そのため、ある期間において、同一インフォーマントに同じ調査をかけることによってその生活の仕組みの変化も見ることが可能である。

上記のような点から、農村生活総合調査は、他の調査や分析手法にも有用なデータを提供しうる。例えば今回の調査でも、社会・ジェンダー分析の個別世帯調査の際には農村生活総合調査の手法が活用されている。

社会・ジェンダー分析と農村生活総合調査の異なる点は、農村生活総合調査が特定のインフォーマントの生活の成り立ちをセットとして捉えるのに対して、社会・ジェンダー分析では、グループ内の男女差、社会階層差の傾向として捉える点にある。そのため、社会・ジェンダー分析では農村生活総合調査より多くのインフォーマントから情報を得ることが可能だが、前もって質問項目が用意されていることや、グループインタビューと個別調査の結果を混合して調査者が判断するところから、一つの文脈を持って組み立てられている人々の暮らしが分断されてしまい、それぞれの項目の関連性を見失う恐れがある、という弱点を持つ。しかし、村人の活動がひとつの表となって示され、そこに男女の役割の違いが描かれていることから、そのような違いがあることを関係者が認識するには役立つツールだろう。このような特性から、実態分析に使用するとともに、その調査結果をプロジェクト関係者や村人の間でシェアする住民参加過程の手法としても有効だろう。

一方農村生活総合調査は、一つの暮らしをいろいろな角度から捉えてその姿を浮かび上がらせていることから、その地域に住む人々の暮らしの現状や抱えている問題点などを具体的に知る際に、有効なツールと言えよう。しかし弱点として、そのインフォーマント数の少なさからくる調査結果の一般化の難しさである。その弱点を克服するために、この調査ではインフォーマントの選定と、そのインフォーマントの地域での位置づけを重要視している。しかし、調査から得た結果が、そのインフォーマントに特異なものなのか、地域的なものなのかを判断しがたい部分もでてくる。

社会・ジェンダー分析も、農村生活総合調査も、地域の社会階層や男女の違いによる置かれている状況や役割の違いに留意している。しかし、上述したようにそのアプローチには違いがあり、調査結果の利用目的によって使い分けする必要があると思われる。

注

- 1) 田村 真知子、チベット・ビルマ語系諸民族、「もっと知りたいネパール」、1986、弘文堂、p123。
- 2) 調査者の一人がバングラデシュで調査をおこなっていた農村でも、「農民ではない」ということで農民たちから差別を受けてきた機織り関連の仕事に就いていた人々が（彼らの間で通婚はなかった）、それをパネとして家業に励み、また子弟たちに高い教育を与えてきたことから、現在では経済的に成功し、新興エリート・グループを成すようになってきたという事例が見られた。
- 3) デレク・デニストン、権利を守る先住民の地図作り、World Watch、(日本語版)、12月号、1994、15-20。
- 4) 内田精夫、安藤和雄、ムハマッド・セリム、アルクフ・ホセイン、農村本文化：バングラデシュの農村インフラ整備への新しいアプローチ、東南アジア研究33巻1号、1995、66-81。

V 農業・農村開発プロジェクトでの調査手法の活用

1. 農業・農村開発計画の特質

(1) 農業・農村開発計画の特質：農業者への直接の接触

農業・農村開発プロジェクトの主たる対象は、農民、農業従事者であり、プロジェクト目標を達成するためには、農民、農業従事者をはじめとする地域住民の参加が不可欠になるケースが多くなってきた。プロジェクトが、農業生産性の向上が目標であっても農村の地域社会に居住する住民全体がその開発に何らかの関係性を有することになる。この場合に、開発の効果が、多くの農村地域住民に波及することは、重要なファクターであり、特に固有の生活、文化体系をもった人びとの農村生活の状態を調査し、認識することが重要な要素である。

(2) 女性の視点、生活の視点：農業農村開発の視点の展開

農村生活改善のための女性の技術向上基礎調査を継続してきて、対象となる地域社会の農村生活の現状を把握するためには、男女両性の活動を対等に見る調査視点が重要であることが次第に明らかになってきた。農村生活や農村社会の特質、問題点、などを的確に把握するためには、この種の調査が大きな役割を持つことも判明した。

以上の知見は、今回の基礎調査の大きな成果である。そして、多くの地域、多くの民族において農村女性が確保し、維持し、生活に利活用してきた資源（生活資源）は少量ではあるが、多種類に亘り、少量であっても彼らが生活を維持するためには、いずれも欠くことができない資源であるということが出来る。しかも、これらの植物資源を中心とする生活資源は、農業・農村開発と大きな関わりをもち、これらの資源へのアクセスの状況、コントロールの状況が地域の人々の基本的生活を維持する効率性や労働量にかかわってくるのである。伝統的な固有の土地利用には、固有の自然的条件のもとに暮らしの中で工夫されてきた固有の自然への認識とそれと密接に関わる技術体系があり、長い年月を掛けて利用可能な資源を少しずつ増やしてきた経過が認められる。

(3) 農業・農村開発計画への女性の参加、参加ができる条件の模索

このような農村生活を支える資源とこれを支える現状の認識をして、農業・農村開発プロジェクトを押し進めることがなをもって重要な要素になってきたといえる。主に女性が維持してきた農村生活の体系は、開発という名の下に傍らへ片づけることはできない要素を持っている。女性の開発への参加が、女性が維持してきた固有の農村生活を認めることであり、その作業を男性も認識すると同時に一部を分担をして、女性の開発過程への参加を促進することになれば、自ずと開発の内容やスタイルが大きく変わってくるものと思われる。

(4) 本章の目的

本章では、5年間継続してきた「農村生活改善のための女性の技術向上基礎調査」のまとめとして、農業・農村開発プロジェクトにおける女性の参加とこれに伴う種々の問題点をカバーしつつ、配慮していく手段として、対象地域の農村生活の実態を的確に把握する調査手法を開発過程のサイクルとして位置づけ、出発点であるベースライン調査と、開発過程の中心となるモニタリングと評価のあり方をネパール、トリベニ村の調査結果を用いて具体的にまとめる。

2. 農業・農村開発プロジェクトのステップとモニタリング・評価

2-1 プロジェクトの進行と農村生活把握の視点

(1) 農村生活の基本類型を設ける

地域には、固有の農村生活が存在し、それを把握することが手続きとして第一歩である。地域の固有の「農村生活の基本類型」をとらえることからこの調査は始まる。対象となる地域社会の農村生活の基本型を想定することになる。代表性のあるインフォーマントを選定して、1セットのデータをとることにより、どのような仕組みで生活が成り立っているのかを把握することが、この調査の方法と分析のポイントである。このように得た基本類型がプロジェクトの進行過程でどのように変化して行くのか、モニタリングをしていく。そして、終了時点でプロジェクトの目的との関係で成果を評価する。

1) 生活の基本類型をどのように決めるのか

ネパールではトリベニ調査で、「山間部に居住するマガール族」の人びとの暮らしを基本類型とした。トリベニ村の中心地、アルトゥン・バザールは、近年開けたセディ川 Sedi Khola、の谷部の沖積地に位置している。この10年ぐらいの間に人びとはここに移住して、何軒かの商店経営や街道沿いの宿泊所があり、街区形成が見られる。この周辺にも農業を営む人びとが居住するが、多くの人びとが山間部から下りてきている。この地域の生活の基本型は山間部にあり、山間部での生活類型をもった人びとが低地に下りて生活している。

生活の基本類型を設定するために以下の手順をとった。

1. おかれているプロジェクト目標に対応した問題仮説を立てる。
2. 地域概況を調査し、問題仮説に対応した調査対象候補を複数たて概略ヒアリングをする。
3. 問題仮説と地域の概略の情報を照らし合わせて、問題が明らかになるように問題仮説を修正する。
4. 伝統的な従来からの生活様式を保持し、基本的生活が成り立っていた対象者を基本軸にし、「農村生活の基本類型」とする。
5. 基本類型の生活を調査する世帯では、生活資源カタログをはじめとして農村生活総合調査を夫婦別に1セット実施する。

ネパール出発以前に今回の基礎調査でのフレームは、「貧困層の生活の成り立ち」を基礎調査の課題とした。開発に貧困層をどのように取り込んで計画を立てるのことは重要な要件のひとつである。フィールドに入り、まずトリベニ VDC (村) の書記に地域概要をヒアリングした。続いてネパール社会林業の M/P チームメンバーがあらかじめ選定した、インフォーマント候補 (いずれも、アルトゥン・バザール周辺の低地部に居住している世帯) への簡単な概況ヒアリングをした。

その結果、ほとんどがこの10年前後に山間部から下りてきた人びとであることが判明した。地域の概況でも山を下りてきた人びとが多くあること、このような人びとは、どのような理由で山を下りようとしているのか。ネパール林業プロジェクトでは、山間部の緑の環境保全が第

一の目標であり、人びとの山間部での生活を改善して、環境保全を自らの参加による自助努力で解決していくことが唱われている。しかし、人びとは山間部から下りようとしていること、また、一部の人びとがアルトゥン・バザールを越えて南部のインドよりの平原地帯、テライのチトワン地方に転出する例が聞かれた。山を下りようとする考え方は一般的なのかどうか、定住を志向する人びとはいないのか、定住を志向する人びとはこの地域でどのような生活の見通しを立てようとしているのか、が新たな問題として浮上した。この問題を把握するためには、山間部の人びとがどのように農村生活を営んでいるのか、を明らかにする必要がある、山間部の人びとの生活をこの地域の基本類型とすることにした。

山間部で定住をしている人びとの農村生活を基本類型として、それらの人びとの生活の仕組み、成り立ちを明らかにすることを軸に人びとのこの地域で生活を営もうとするときの方向性を見いだすことが最初のステップである。

つぎに、当初の問題仮説に従って「貧困者の生活がどのようになっているのか」を明らかにした。貧困など何らかの理由で地域での生活「基本型を満たせない人びとの生活」をとらえることが、2番目のステップである。トリベニでは、ネパール社会のカースト制で高い地位が与えられているパフンの貧困者をこの基本型を満たすことができない型とした。

2) 生活資源のソースは、どこにあるか

暮らしを維持する生活資源のソースは、家庭菜園や森林などであるが、これだけで基本的生活を維持できるものではない。訪問した多くの国々の農村地域では、いくつかの集落が集まった単位（生活圏）に市（いち）などが開設され、地域内での資源の再配分や地域外からの資源の流入によって成立している。この市の中心は何といても女性たちであり、特に地域内の資源を再配分することの役割を担っていった。このような市での女性の役割を明確にできたのもこの基礎調査の大きな知見の一つである。

3) ローカル・マーケットなどの役割

ネパール山間部にはハート hat という1週間に1回のローカル・マーケットが開かれる。しかし、この地域ではこのような市の発達は見られない。アルトゥン・バザールのように常設の街区が形成されて、常設の商店による商品の供給がなされている。野菜やパンなどの生鮮品などを売り歩く人びとの姿も見ることができる。人びとはアルトゥン・バザールの価格の高さや品数がそろわないことから1ヶ月に1回ぐらいワリンという街道沿いの町まで片道3時間ほどかけて歩いて買い出しに行くことも多い。

4) 共有地や共有財産

また、人びとが暮らして行く上で、共有地や共有財産が重要な役割を果たす。トリベニ村でも Community Forest があり、人びとの利用に供している。しかし、盗伐に備えて監視人を雇っている。監視人が必要になるほどこの資源を活用したい人びとが多いことを意味している。管理する費用がかかり、費用が負担できない人びとは利用ができない。つまり、十分な資源が絶対的に不足している状況であり、貧困者が利活用できるシステムにはなっていない。類似したものにプルカオリ・ボンという一定の親族組織の共有林もある。しかし、両者のいずれも1年に1回程度の利活用になっており、その利用ルールはきびしいものがある。

その一方で、誰もが利用してもいい資源が存在している。これは、個人有の森林でも一定の

果実などは、断らずに収穫してもよいという不文律がある。個人有であるために監視人を置くことができず、とられるのを任せているというのではなく、自然発生的なルールが生まれていると解釈した方がよいだろう。また、誰もが利用に供する事ができるように公共的空間に植樹した果樹の存在があげられる。旅人や貧困者や子どもたちが主に利用しているという。もてるものがもたざるものに喜捨をするという南アジア的な価値規範がうかがえる。これらのものが次に述べる基本形を満たせない人びとの生活にどれだけの効用を果たしているかは、今回の調査では明らかにできなかった。

(2) 基本型を満たせない人びとの生活

1) 基本型を満たせない人びととは、主に貧困者である

多くの場合、貧困層が「基本型を満たせない人びとの生活」類型に該当する。借金を抱えている人の中からこのインフォーマントを探すことになる。前述したように、基本類型のバリエーションとして調査したものの中から、分析的に見いだされることもある。これは少数民族の場合や被差別民であったりすることが予想される。

この類型の調査の留意点は、以下のようになる。

1. 生活に必要な資源を貧困層がどのように確保しているのか？
2. 生活を成り立たせるために、何をどこから誰がどのように利用しているのか？
3. 生活を支えるための社会システムはあるか（相互扶助・庇護関係等）？
4. 実質的にコミュニティなどによって制限されている資源はないか？

バフンの貧困者は、借金をかかえて現在のところ返済する目途はたっていない。食料を確保するにもその耕地もわずかであり、降雨により表土が流出して土砂崩れしたわずかな耕地があるのみである。この中でさらに借金をして飼養しているのが水牛（メス）と牛（オス）である。水牛は乳が出るが、この乳をまだ小学校に通う子供に与えるためとわずかな耕地を耕作するために妻の名義で借金をして入手している。この家畜にやる餌は、仕事をくれる人の森で一定の慣習に従って飼料となる草木を得ている。このインフォーマントを調査していて借金の返済の目途もないし借金の形もないのに金を貸したり、慣習によって飼料木が利用できたりする社会的な救済システムの存在が推定されるが、今回の調査では判明しなかった。

2) 貧困者をつくりだした要因：社会構造的要因と個別の要因

この貧困者をつくりだした原因は、インドへの出稼ぎなどの「儲け仕事」従事の失敗や家族関係などの要因が本人によって語られる。今回の調査期間では、十分な人間関係が調査者とインフォーマントの間に形成されるには無理があったが、この地域の貧困が地域全体の生活、構造的な問題なのか、個人的な原因によるものなのかを見極める方法として「ライフ・ヒストリー調査手法」を試みている。本人が自覚する貧困の主因は子供の彼の財産の持ち逃げということになる。しかし、他の要因が構造的にからまっており、その点までは把握ができていない。

(3) 村人の暮らしをとりまく生活環境

基本的な生活を維持することの基盤は生活環境であり、それは、「社会的環境」と「自然的環境」に分かれる。

1) 社会的環境

生活の基本となる社会は、個々の生活基本単位の広がり、地域社会が形成される。トリベニは、VDC と呼ばれる行政村である。VDC は、Village Development Committee の略であり、ここには、村長が置かれ、その書記官が配置されている。そしてこの下に 9 の Ward があり、アルトゥン・バザールもこの Ward 9 の一部になっている。ネパールには南アジア特有のカースト制があり、これにカースト外の多くの少数民族が加わって複雑な社会構造をつくりだしている。地域的な差異も大きい。生活を支えるこのような背景が社会的環境の大きな要素となる。チベット系少数民族は、複婚の形態をとることがあり、一部には一夫多妻制の他、珍しい一妻多夫制をもつ民族も報告される。カースト制や独特の社会構造は、経済的な変化に伴い、少しずつ姿容を見せてきているが、構造的な変化が生じる傾向は今のところ少ない。

一般的には、親族組織、社会活動グループ、経済社会階層、カースト制等、人びとの人間関係、社会集団の様相等、社会を成り立たせている地域集団、人びとの活動や行動を規制する「社会的行動規範」、土地所有制度、金融制度、職業構成、就業機会といった経済条件、交通・情報といったコミュニケーション、流通・市場制度、治安・安全保障などがこの要素である。いずれも生活の基本類型を支えていく社会的要素とすることができる。

① 女性の社会参加をどうしたら促進できるか

このようななかで女性の社会参加が難しいという社会的環境の存在が構造的要因として浮かび上がってくる。

男性が出稼ぎで大金を稼いでくる。女性は留守を守り、家族の面倒を見るのが大きな役割となる。家事や育児はもちろん、農作業も女性が実質的に行っている。男性が出稼ぎに出て不在の時は、男性の役割も担い、農作業はもとより家庭内の切り盛りをする。

農作業も家事も育児もすべて女性が担当しなくてはならない。ロキシーなどの酒づくりもすべて女性の手によってなされる。社会活動に女性が参加したら暮らしが成り立たないという意識が大きい。

家事を手伝うのは基本的には娘であり、娘が適齢期になれば息子の嫁がほしくなる。裕福なものは 2 番目の妻をめぐって若い妻に家事などの実質的な仕事をやらせることもある。年長の妻は、宗教的な活動や家々とのつきあいなどの時間に充てている。商業を営むものは、農作業と商業を 2 人の妻で分担している。

出稼ぎから帰った男性は、農繁期以外は引退の身分で、インド政府などから支払われる年金を受けながら、コミュニティの会合には頻繁に出席はするが、実質的な仕事からは遠ざかる。女性は現金が稼げないというコンプレックスを男性に対して抱いている。男性は軍隊生活という危険な仕事に従事して年金まで含めて大金を手に入れて帰ってきたという意識がある。それが家族にとって幸せになる手だてだと考えている。女性は夫が出稼ぎに出ている間中、1 人で家庭を差配して夫が危険な仕事に従事していることを負担に感じながら同じように努力してきた。帰ってきた夫は地域でも英雄である。手に入れてきた大金の一部を割き、コミュニティに役立つ簡易水道やチョウトラなどをたてる。そのような男に（つまらない？）仕事をやらせる女は悪い女になってしまう。

2) 自然的環境

村人の基本的生活を支える自然的基盤であり、その要素は、地質・地形、植生、野生動物、水文環境、住居・耕作地の立地、災害の状況などである。

ネパールでは、生活の基本類型は、牛や水牛を飼うことにより畜耕を行っている。これらの飼料の主体は、飼料木という山間部の木々の葉を用いる。この木の葉はまた、家畜の糞と混ぜて畑や田の肥料となる。これらの木々は、決してよい環境に維持されているわけではない。森林資源の減少傾向は、強く、耕地の表土流亡は加速度的に生じている。化学肥料は、このような棚田には有効性は少なく、生産性は低下の方向にある。これらの検討が、自然的環境で検討される。

与えられた自然的環境を人びとがどのように使いこなして基本的生活を成り立たせているのかが問題である。前年度の基礎調査でスラウエン島の自然的環境が、部族ごとにみごとに異なる形で土地利用している姿を「生活資源カタログ調査」で表現できた。自然的環境の状況だけの調査ではなく、それを人びとがどのように使いこなしているのかを把握することなしには、十分な生活の理解とはいえない。繰り返すが、男女による自然的環境の利活用の違いが大きいため、特に女性の利活用の仕方というデータなしでは、その地域の生活の把握は不可能になる。

2-2 人びとの生活がどのような方向に向かおうとしているのか

基本的生活類型とそれを取り巻く生活環境の把握だけにとどまらず、人びとの生活がどのような方向に向かおうとしていくのかをデータにより分析することが開発との関連性を見いだすのに重要である。つまり、どのように生活が変わってきたのか、生活を変えようとしてきたのかについて生活環境との関わりを通して分析しようと言うのである。

まず、最初のポイントは、「生活の基本型は、過去からどのように変化をして現在の姿に至ったのか」ということである。トリベニでは、山間部から人びとが低地部に下りてきた。山間部の生活の基本型から低地部の生活を成り立たせるというバリエーションが発生してきた。人びとは、山間部の生活から低地部の生活に変化させることによってどのような資源の利活用の変化が生じたのか。牛や水牛を飼うことがこの地域の人々の生活を成り立たせる基本であった。そのために山の北側斜面、つまり日照条件の悪いところでは、多種類の樹木を維持する森として土地利用していた。この木の葉が牛や水牛の主要な飼料になった。日照条件のよい南側斜面は、樹木を植えずバリという棚畑にしてシコクビエやトウモロコシ、豆や野菜などと混作をしている。その肥料も水牛と牛などの家畜の糞と森の産物でつくられる。耕地を維持しようとする人は牛や水牛は手放せない。子供が小さい場合も水牛の乳は重要な栄養源だ。山から下りた人は、父の家に野菜や牛乳を分けてもらったりして。基本的にこの地域は野菜やミルクの販売は商業化していない。多くの人びとは耕地を維持しようとしており、そのために水牛や牛を飼おうとしている。貧困者も借金を払いながら水牛と牛を飼養しようとする努力をしている。しかし、現金収入にのみ依存した生活に移行させようとしている人びとも出てきているのも事実である。

人びとは、山間部の生活の仕方だけでは、豊かにならないと考えている。人びとがこの問題を解決する手段としてパターン化しているのは、「インドに兵隊として出稼ぎに出る」ことである。いわゆ

る最も勇敢だと言われる「グルカ兵」となることである。若いうちからインドに出稼ぎに出て、インド軍に入隊し、無事に一定期間の兵役を終えると月に5千ルピーの年金が出る。出稼ぎに出ること、特にグルカ兵として出るとは男の榮譽であると考えられている。帰還すると多くの男たちは地域の人々に社会的な貢献をすることが、暗黙に了解されている。生活の基本型として対象となったインフォーマントは、近所に簡易水道を敷設した。地域の人々からの尊敬は篤くなる。故郷に帰った男は、働けてもあまり農作業に従事していないように見える。女たちは、「帰ってきた夫には何もいえない」。女たちは、男たちの表面上の活動に隠れて農作業から家事育児に多くの労働時間を要するようになる。兵隊にいなかった男は、妻のからだが悪いこともあるが、結構、妻の仕事を手伝うような様相が見える。しかし、どうも十分ではないことは妻の調査からわかる。基本類型から見た場合には、山から下りた人びとの男性は、妻の仕事の分担を相対的には実施してるといえる。

インドなどへの出稼ぎによって稼いだ金は、ケットバリ、つまり灌漑可能な畑地を手に入れるのに用いられている。そして、ゆくゆくは低地部で暮らすのだという低地部の空き家を手入したりしている。妻も山での生活は大変だからそこを下りたいと考えている。女性が生活を楽しむには、嫁をもらうことによって嫁に家事を譲ることによってかなえようとしている。ある人は、2番目の妻をもらって第一夫人は、信仰やおつきあいに、若い2番目の妻は、家事育児を分担している。ここでは家事育児といった女性の生活を男性の協力をえて改善することが重要な課題となってくる。

出稼ぎなどにより、確実に現金の収入が増加している。米もつくるが、それだけでは満たせないで金で購入することになる。シコクビエは、主食からロキシというローカルのアルコール飲料の原料に回されることが多くなった。女性たちの小遣い稼ぎにもなっている。

このように、基本的な生活類型がどのように変わってきたのか、変えようとしているのかを明確に把握することが、後述するニーズを的確に把握する大きな手段である。同じように「基本型が満たせない人びとの生活」でもどのように変化してきたのか、どのような変化を選択しようとしているのかを、直接インフォーマントに聞くだけではなく、データの分析から把握するのである。社会的環境と自然的環境によって構成される生活環境の変化もあわせてどのように変化をしてきたのかを把握する。しかしながら、文書の記録がない場合などは、オーラル・ヒストリー手法（口づたえの歴史）で外挿することも手段として考えられる。今回は、アルトゥン・バザールの形成の歴史を口承で調査した。人びとが、なぜアルトゥン・バザールという町をトリベニにつくり、そこをひとつの特定の空間として生活の中に位置づけてきたのか、このような全体の生活変化の方向性が、村や町の形成にうかがえるのであり、つぎのニーズ分析に大きく関わってくる。

2-3 ニーズ分析

人びとのニーズをどのように把握するのか、これは開発の問題と調査結果を結びつける大きな接点である。ニーズには、ニーズ調査などと称される方式で表される表層的なニーズと生活の中に埋没していて本人たちもなかなか自覚していないニーズがある。前項の「人びとがどのような方向に生活を変えようとしているのか」の分析によって得られるものが後者の埋没していて、自覚されないニーズの一部である。表面に現れたニーズが基本的な生活類型との関係の中で、さまざまな人びとの属性によってどのような意味をもつのか明らかにすることが必要である。

貧困層は、より、基本類型を満たしている人びとの生活により近づこうとしているし、基本類型を

満たしている人びとはより一層の暮らしの充実をはかろうとしている。つまり、経済的な状況や社会的階層によりその充実の方向は異なるのである。トリベニでは、基本類型にあるひとは、より多くの米飯が得られる生活を求めようとする。山間部では、家畜の飼料や田畑への肥料を施す作業はきつい労働となっている。人びとはその問題を解決しようと山から降りようとしている。特に女性はそのような意識を強く保持しているようである。

ここでプロジェクトは、どのような開発をしようとするのだろうか。山間部の緑の環境維持を目標に置いて、その人びとが自主的にその問題に取り組んでいけるように生活を改善していこうとする場合、低地部にだけ開発というインプットを置こうとするのか、山間部にも開発の効果が波及するにはどうしたらよいのか。将来的に人びとが山を下りることをどうプロジェクトとして位置づけるのか、このような生活の中に埋没している人びとの意向とプロジェクト目標、具体的活動をどうつなげていくのか。

女性の開発への参加は、女性が担当している仕事を軽減しなくては、新たな開発の役割分担をこなすことができないだろう。女性が実施してきた実質的な仕事を誰に代わってもらうのか。ケニアの社会林業プロジェクトでプロジェクトに雇用されるために彼女たちの仕事を肩代わりしたのは学校に通う娘であり、学校を休んで弟妹の面倒をみるという状況があった。女性たちの仕事は実質的であるので誰かが肩代わりしなくてはならない。その代替案をどのようにつくるのか。一定の女性に光をあてることが他の女性の犠牲の上に成り立つのならジェンダーという問題は生起しなかった。

このような問題が発生したときに「社会・ジェンダー分析」のもつ男女参加型のグループインタビュー方式は有効性をもつ。女性がどのような実質的な仕事を分担しているのかを第三者を含めて検討をすることになる。前述のように分析したトリベニ地域の男女の関係性をもつ社会構造において、特に住民参加により実施するプロジェクトではこのようなプロジェクト過程が不可欠になる。さらに、PCM手法による社会ジェンダー状況の問題分析と改善方法の合意がなされること、このようなPCM手法が開発されることを望みたい。

2-4 計画の策定

現状分析を通して対象地域の農村生活の基本型を析出して、そこから、村人のニーズを分析する。これらの調査、分析過程に従事してきたものが計画策定段階にも参加して、PCM手法を経てPDMを作成する。

村人たちの経験と知恵によって培われてきた生活の基本型のもつ価値を適正に評価した上での計画策定とその過程における情報の共有化を配慮して、練り上げることがポイントである。

このような過程を経ることがよりよい計画策定への道であるが、「現状分析過程」と「農村生活の変化の方向」の分析、それをもとにした「ニーズ分析」についてよりよい計画策定を考える場合に、これらのデータや分析結果のシェアリングが重要である。次年度から開始される「仮称フィリピン共和国農村生活改善研修強化計画」では、長期調査の段階でPCM手法を集落レベルから採用して日本側チームとフィリピン側チームがその段階から参加して実施された。現状調査ならびに分析の段階では、それぞれのチームの得意とする方法を別個に行い、住民や地方行政レベルの担当者、農業技術者や普及員が参加するPCMが双方から出席して実施された。

これをマニラに戻り、PDM作成の策定過程には、マニラのフィールドに参加していないフィール

ド調査参加者の代表や管理業務従事者を含めてPCMがもたれた。プロジェクトを問題分析の過程で調査に参加していない本部参加者とフィールド参加者の意見が一致しないときに、「生活資源カタログ調査」のカタログがしばしば用いられ、フィールドでのデータによる意見が採用された。PCM段階ではとくに問題分析の過程で意見の不一致が見られた場合、データなしに参加者のイメージだけで進行する懸念がある。このフィリピンの事例では、いかに現状調査、現状分析の段階で調査結果や分析結果を援助側、被援助側が相互にデータをシェアすることが重要であることを示している。この場合、生活資源カタログのように分析されていない生データの方が、イメージの異なる参加者の意見を合意をもって行くことに有効であった。フィールドの現状を計画策定に反映させながら実施することが可能になるのである。

2-5 プロジェクトの実施段階：モニタリング

(1) 女性に焦点があてられたり、住民参加の要素があるプロジェクトの場合

農業・農村開発計画のうち、女性に焦点があてられていたり、住民参加型の開発要素が組み込まれていたりした場合に、ネパール社会林業プロジェクトでもこれから実施されるフィリピン生活改善プロジェクトでも、計画策定段階では、住民参加によるプログラムの内容は、決定していない。現在進行中の南東スラウェシ農村開発計画でも女性のコンポーネントは、プロジェクト実施過程で組み込まれた。フィリピン生活改善プロジェクトでは、開始段階では、州段階のプロジェクト・サイトは決定していても、具体的なサイトの数や内容は決められていない。これからの農業・農村開発計画では、このような形態が増加してくることが予想される。

ネパール社会林業プロジェクトでは、この種のプロジェクトをサブ・プロジェクトとして区別している。南東スラウェシの場合、農業技術の普及や生活の向上を図る上で女性の参加が大きな要素となり、計画策定後に組み込まれていった。これらのプロジェクトの費用は、南東スラウェシの場合、業務調整費が充てられたという。金額的には、大きな額にはならない。フィリピン生活改善プロジェクトでは、どのようなサブ・プロジェクトが実施されるかは、生活改善という用語の定義と関わってくる。しかし、具体的にどのようなサブ・プロジェクトが組み込まれるのかは、現在の段階では決定されていない。

つまり、大きなプロジェクト計画段階では、大まかな計画は立てられていても、住民参加で実施される開発内容は、実施段階で決定される。このことは、開発を実施していく専門家が中心となって個々のサブ・プロジェクトの計画策定がなされることになる。ネパールのサブ・プロジェクトでは、例えばトリベニ、Ward 9では、簡易水道のプロジェクトが予定されている。住民が参加した意思決定過程で決められ、その設置個所などが検討されている。また、ネパール社会林業プロジェクトでは、サブ・プロジェクトの期間を2年間と短期間で実施していく。フィリピン生活改善プロジェクトでもボホール州のプロジェクトサイトは、3年間で予定しており、具体的な住民参加によるパイロットエリアの候補地は、実施後に決定される。このように住民参加により実施されるサブ・プロジェクトは、この2つのプロジェクトで見ると、短期間であることが特徴となっている。

(2) 住民に納得が行く調査結果やデータの提示の必要性

このような開発過程では、計画策定は、住民が納得行く調査方法や調査データが有効な資料となる。生活資源カタログ調査のように写真の資料とフットマップのような簡易図版を使用した調査データならびに資料は、フィリピン生活改善プロジェクトの長期調査員調査でその有効性が確認されている。

フィリピン生活改善プロジェクトではどのようにモニタリングをして評価するのかについては現段階では未定である。そしてネパール社会林業プロジェクトでも、PDM 作成後にモニタリングと評価の方法を検討することになっており、基礎調査が実施された時期では、確定されてはいなかった。

通常の場合、実施後、直ちに計画打合せ調査団が派遣され、その段階でベースライン調査の方法ならびに、モニタリング・評価の方法が決定されることが望ましいとされる。ネパール社会林業プロジェクトでは、パッケージ型協力という JICA のプロジェクト技術協力と JOCV、に JICA の開発調査が加わった大がかりなプロジェクトである。関係する人員も多くなり、このプロジェクトならではの OPERATIONAL GUIDELINE を設けていることは、前述した。

(3) モニタリングの視点

モニタリングは、開発行為の投入によってどのように人びとの活動に影響を与えているかを簡便な方法で字句のごとくモニタリングすることが基本である。特に、プロジェクト目標で、どのような点に問題があり、どのように目的を設定して、どのような手段をとってその解答を得ようとしているのかという一連の活動が人びとにとって、あるいは、カウンターパートにとってどう映っているのかがポイントである。

女性が中心となり、生活の向上や生活改善が目的に入った新しい農業・農村開発計画では、モニタリングにおいても生活視点がキーポイントとなる。しかしながら、このような女性に焦点が当てられた、生活の向上や改善が目的に含まれる住民参加型のプロジェクトでは、開発前の生活の状態がどのようなか、それがどのように変化していくのかをモニタリングして行く必要がある。プロジェクトの実施により、農村の生活環境と農村住民の生活の基本型がどのような傾向で変化しているのか、がモニタリングの視点である。

生活の基本型では、生活の基本型をつくりだしている生活要素の変化に着目することになる。

1. 生活の基本型における要素ならびに資源の獲得方法の変化
2. 生活の基本型を維持してきた担い手の変化、担い手への負担の変化
3. 基本型が満たされない人びとの生活でも同じように要素ならびに資源獲得方法の変化
4. 同じく担い手と担い手の負担の変化。
5. 社会的環境そのものの変化：資源への制度的アクセスの状況の変化、就業機会、所得創出機会の増減、情報の獲得、交通・移動手段の変化、流通・市／市場の変化、治安・安全の変化、社会集団・社会関係の活動状況の変化、村人の生活維持に及ぼす影響力の変化。
6. 自然的環境の変化：地質・地形、植生、野生動物、水文環境、住居・耕作地の立地、災害の状況。

7. 生活の基本類型での変化の動きからどのように変化の動きが変わってきたか。
8. 望む変化の方向、変化に巻き込まれる人びとの属性、変化の方向性の変化。
9. 基本型を満たせない人びとでも変化の方向がどのように変化したか。
10. 社会的環境での変化とその方向性の変化
11. 自然的環境での変化とその方向性の変化
12. 生活の変化に対して農村住民どのように認識して評価しているのか。
13. これまでの基本型に対する評価の変化。
14. 基本型を満たせない人びとの生活変化に対する認識と評価の変化
15. 同じく新しく求める満たせない人びとの生活の型はどのようなものか。
16. 社会的環境の変化を農村住民どのように捉えているのか。
17. 自然的環境の変化を農村住民どのように捉えているのか。

ネパール社会林業プロジェクトでは、緑の村落振興計画において女性の開発への参加が、主要なポイントである。本基礎調査では、トリベニ村での問題点を「山を下りて生活をしようとしていること」「女性が夫婦という中でも地域社会の中でも実質的な生活を担当することが本務であり、女性自身も社会参加すらもってのほかだと考えていること」に変化があるのかどうかというのがポイントになる。

森林の保全についての人びとの表層上の意識は高く、これらのものが先行したトリベニ村の Community Forest の事業もあり、森林を守る意識は、まったく農業に従事していない人にも積極的な意見がうかがえる。「山を下りること」という人びとの意識にどのような変化が生じているのかは、微妙な動き方をしている。「山を守ること」と「山を下りること」の二つの問題をインフォーマントは、矛盾を感じ始めていることは事実のようだ。

地域社会のリーダー的存在で、今回の調査で生活の基本型とした調査対象者は、依然として「山を下りること」への執着が大きい。現実には山を下りたときの住居の入手は終わっている。その彼は「山を下りてしまったら、山を守ることはできないのでは？」という問いに対して明らかに回答に窮している。一方、その息子は、かつて一時的に海外出稼ぎを試みたが、それが果たせなかった。その彼に、外に出稼ぎで出ること自体を否定する言質があった。しかも、父親とは山を下りることについては、意見が異なり、明確に山での暮らしを維持する必要性を訴えていた。彼は、ネパール社会林業プロジェクトの JOCV 事務所に雇用され、深くプロジェクトに関わっているためにこのような態度を示しているといえるだろう。

女性の意識はどうであろうか。女性に対するプロジェクトがまだ開始されていないことから、女性が自らの生活を変えて開発への参加を積極的に実施していこうとする意識は今のところ、残念なうかがうことができない。生活の基本型を維持している女性よりも、この場合、貧困女性をターゲットにした活動を設定して、それを生活の基本型が維持されている女性たちがサポートするようなプログラムはできないであろうか。

2-6 プロジェクトの終了・事後段階

生活の物質的側面は、変化の著しい側面である。開発により何がインプットされ、どのようなものが供与されたのか。プロジェクトの中間段階、終了時、事後に予定されている評価は、この点が農業・農村開発プロジェクトでは、重要なポイントである。開発プログラムで何を換えようとしてきたのか、それらの背景にある問題意識が人びとの具体的な行為として具現されているのか。プロジェクト方式技術協力では、評価基準として評価の5項目（実施効率性、目標達成度、効果、妥当性、自立発展性）が設定されて、そのような視点で評価を見ていこうとする姿勢は重要である。これに加えて、人びとが具体的な反応として、自らの生活をどのように変えてきたのか、換えようとしているのかはモニタリングの視点と変わらず重要であり、評価のポイントでもある。

評価の時点での軸は、やはり「生活の基本型」であり、「基本型が満たされない人びとの生活」がどのように変わったのか、その変わったこととプロジェクトがどのような関係にあるのかを把握することである。「生活資源カタログ」に示された資源の利活用が、プロジェクト・サイクルの中でどのように変化したのか。これはこのカタログが、写真でできていることから、大多数の人びとが認識できる具体的なデータである。それも住民自体もはっきりと明確化できるデータでもある。また、イメージとしてつくるフットマップや村の鳥瞰図などもどこが変わったのかを示すデータである。数値や文字の記録は、その解釈や読みとりでこれらのデータから一歩劣る。専門的な分析能力が必要になるし、解釈も多様に分かれてしまうことがある。

そして重要なことは、開発の目標が具体的にどのように展開したのか、効果があったのか。効率はよかったのか。という評価五項目を軸に検討すると同時に、対象社会の生活がどのように変化して、人びとの意識がどのように変わったのかを見て取る必要がある。具体的には、次項で述べる。

住民参加型のプロジェクトは、自立して自らの問題を自らが考えて、自ら解決していけるようにすることが大きな目的がある。トリベニ村では簡易水道を改修することが、その具体的な手段の1つとなる。これらの行為は、彼らの生活の慣習として、海外出稼ぎで帰還できた「英雄」が、その帰還したことを地域社会に還元する活動として暮らしに根付いている点である。これらが頻繁な形で生起するのか。また、人びとの間で援助のプログラムに頼らないで自己資金を出し合ったり、開発銀行などの低利融資を受けて自らがつくりだそうとしているのかが、住民参加型プロジェクトの自立性のポイントである。

評価においては特に開発以前の人びとの農村生活の状態がどのようになっているのか。これらの現状が人びとがどう換えようとしているのか。換えようとしていることと用意されたプログラムがどう関わってきたのか。これらの全体が、彼らが自立して農村生活を営めることにどう関わってきたのか。これらが具体的に評価の5項目と関連して示されることが好ましいあり方ではなかろうか。

1 国際協力事業団,1996,『フィリピン共和国農村婦人地域特産物生産加工促進計画長期調査員報告書』

APPENDICES (収集資料)

- Appendix 1: ネパール社会林業プロジェクト
(Survey Format for Quick Appraisal)
- Appendix 2: ネパール社会林業プロジェクト
社会経済ベースライン調査
(調査員訓練スケジュール)
- Appendix 3: ネパール社会林業プロジェクト
社会経済ベースライン調査：調査票
(VDC/WARD PROFILE)
- Appendix 4: ネパール社会林業プロジェクト
社会経済ベースライン調査：調査票
(PROFILE OF DEVELOPMENT PROJECTS)
- Appendix 5: ネパール社会林業プロジェクト
社会経済ベースライン調査：調査票
(CROPPING PATTERN)
- Appendix 6: ネパール社会林業プロジェクト
社会経済ベースライン調査：調査票
(PROFILE OF COMMUNITY FOREST)
- Appendix 7: ネパール社会林業プロジェクト
社会経済ベースライン調査：調査票
(NATURAL DISASTERS IN THE PAST)
- Appendix 8: ネパール社会林業プロジェクト
社会経済ベースライン調査：調査票
(HOUSEHOLD SURVEY)
- Appendix 9: ネパール社会林業プロジェクト
社会経済ベースライン調査：調査票
(SURVEY FOR HOUSEHOLD MEMBERS)
- Appendix 10: ネパール地方開発省女性開発課
PCRW の BASELINE SURVEY
(簡易世帯調査票：悉皆調査用)
- Appendix 11: ネパール地方開発省女性開発課
Micro Credit and Production Credit Project
(HOUSEHOLD SURVEY)

Appendix 1:

Annex 8.1 : HMG/JICA PACKAGE PROJECT Survey Format for Quick Appraisal

Given below are steps and guidelines which we need to adopt in doing a quick appraisal of a subproject in a ward /village.

1. Ensuring Community Participation.

For a subproject to be effective and sustainable participation of the community is a must. It may be in planning the project, encouraging people to take more responsibilities, sharing of ideas and involving families in the activities.

2. Users' Groups

It is important to make sure that the appropriate people from the community are available to help carrying out the programme: women representation in the groups as well as in the management committee. The committee should be small in size and manageable.

3. Selection of Members of Users' Group and Beneficiaries

Preference of area and people should be such that members and beneficiaries of Users' Group are selected from the women and the most deprived and or less able advantaged communities.

4. Relevant Information Gathering.

Information required in carrying out preliminary investigation should cover below given areas:

- a. Family Structure - composition, literacy and occupational status
- b. Economic Situation - land holding, agricultural produce, annual income
- c. Social status - existence of local organizations and the extent of activities
- d. Availability of technology
- e. Possibility of women involvement in decision-making and in benefits sharing
- f. Locally available resources
- g. Facilities and Services for maintenance
- h. Other assistance programmes if any initiated by various other development agencies, NGOs and INGOs

5. **Examine Objective against Goals**

It is important for subproject objectives to be within the defined scope and to be under the overall goals/objectives of the package project. Objectives need to be examined with the expected results which should be specific and measurable.

6. **Check Project Feasibility**

Make sure that the subproject is practical and appropriate one, particularly in the context of its demand driven approach and on the basis of assessment of benefits against cost.

7. **Input Required**

Resources such as People, Materials, Facilities and Finances need to be projected in clear consideration and planning of possible sources.

8. **Sustainability after Sub-project Period**

To give continuity to sub-project programmes even after the period of funding support from HMG/JICA expires should be an important criteria.

9. **Plan of Monitoring, Evaluation and Follow-up**

Supervision of works, evaluation of programme and activities as a follow-up to the evaluation are important aspects of project performance and for effective results: these must be considered in the appraisal process.

	PROJECT STRUCTURE	PROJECT INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	CRITICAL ASSUMPTION OR RISKS
PROJECT GOALS				DEVELOPMENT HYPOTHESIS
PROJECT OBJECTIVES				PROJECT ASSUMPTIONS
ACTIVITIES OR OUTPUTS				IMPLEMENTATION ASSUMPTIONS
INPUTS OR RESOURCES				CRITICAL CONDITIONS

Appendix 2:

Annex E : Training Schedule

Training code : Pre job Enumerators Training-1
 Course Title : Socio-Economic data collection (Baseline survey)
 Location : MULTI Disciplinary Consultant Pvt. (Ltd) Kupondol.

Day/Date	Time	Topic/Activities	Main Objectives	Trainer
1 Jan. 4, 1996 Thu.	10.30-11.00 AM	Registration of Trainers and Trainees; providing Lecture notes etc.	To register the names of trainees and participants in the training	--
	11.00-12.00	Introductory Session	To introduce the trainees trainers and organizers to be familiar with each other.	
	12.00-12.30 PM	Inaugural Session and organizational structure of the Project.	To declare the opening of training formality by an executive person. To enable the trainees to understand the organizational structure of the programme and its functions including his position in the organization	N.G. Halwai
	12.30-1.00 PM	Tea break	To refresh	
	1.00-2.00 PM	Pre training evaluation	To know the preliminary status and knowledge of the trainees on the aspects of socio-economic survey and techniques of interview	P. B. Shakya M.P.Joshi S. M. Shrestha
	2.00-3.00 PM	Explain about the Socio-Culture, Economical and Administration background of the study areas.	Lecture / Discussion	S.M. Shrestha
	3.00-4.00 PM	Objective of the Programme	To make aware the main goal of the base line survey	P.B.Shakya
2 Jan. 5 1996 Friday	10.00-10.30 PM	Registration of trainers and trainees and providing lecture note etc.	--	--
	10.30-12.00 PM	Map identification techniques and general sketching and to give them task for next day	to increase the capability of the enumerators.	B.L. Nyachhyon
	12.00-1.00 PM	Team/Work Force of the Project.	Lecture / Discussion	M.P.Joshi
	1.00-1.30 PM	Tea break		
	1.30-2.30 PM	Relation among the livestock, forestry and human beings of Study Area.	Lecture / Discussion	P.B. Shakya
	2.30-4.00 PM	Explain the concept and practical training in method of interview and data collection techniques. (Interview Guide line)	Lecture / Discussion	S.M. Shrestha

3 Jan. 6 1996 Sat.	10.00-10.30 AM	Registration of trainee and trainers and provide lecture notes etc.	--	--
	10.30-1.00 PM	Explain about the questionnaires and discussion. (House Hold Survey)	Discussion and questions-answer for clear about the questionnaires.	P.B. Shakya M.P. Joshi S. M. Shrestha
	1.00-1.30 PM	Tea break		
	1.30-4 PM	Explain about the questionnaires and discussion. (Administration Survey)	Discussion and questions-answer for clear about the questionnaires.	P.B. Shakya M.P. Joshi
4 Jan. 7 1996 Sun.	10.00-10.30 AM	Registration of trainees and trainers and providing lecture notes etc.	--	--
	11.30-12.00 PM	Explain about the method of communications among the study team and its importance.	Role Play	M.P. Joshi
	12.00-12.30 PM	Tea break		
	12.30-2.00 PM	Forestry, Soil Erosion, Environmental condition of the study area and role of several agencies for it's protection.	Lecture / Discussion	K. Shrestha S.M. Shrestha
	2.00-4.00 PM	Explain about cropping pattern and agriculture background of Parbat District and conversion factors.	Lecture / Discussion	P.B. Shakya
5 Jan. 8 1996 Mon.	10.00-10.30 AM	Registration of trainers and trainees and providing lecture notes etc.	--	--
	10.30-11.30 AM	Background of population and Ethnic groups of study area.	Lecture / Discussion	S.M. Shrestha
	11.30-12.30 PM	Role & responsibilities of enumerators & group supervisors.	Lecture/Discussion	M.P. Joshi
	12.30-1.00 PM	Tea break		
	1.00-2.00 PM	Field site assignment to enumerators & group supervisors and dividing into 5 groups and questionnaires distribution.	Discussion and Site allocation	P. B. Shakya M. P. Joshi S. M. Shrestha
	2.00-4.00 PM	Logistic goods distributions.	--	--

VDC / WARD PROFILE

Unit	VDC Name									Total	
	Ward-1	Ward-2	Ward-3	Ward-4	Ward-5	Ward-6	Ward-7	Ward-8	Ward-9		
0. Data Sources											
Date of Survey (M/D/Y)											
Interviewee(s)	1										
	2										
	3										
1. Area and Location											
1.1 Settlement(s)											
	1										
	2										
	3										
	4										
1.2 Distance to:											
- Pokhara	hours	Foot	Bus	Foot	Bus	Foot	Bus	Foot	Bus	Foot	Bus
- Kusma	(one way)										
- Waling											
- Syangja											
1.3 Land use	(year)										
a. Agricultural land	ropani										
- Khet	ropani										
- Ban	ropani										
b. Forest land	ropani										
- Com. forest (Formal)	ropani										
- Com. forest (IF)	ropani										
- Private forest	ropani										
- Other forest	ropani										
c. Grazing land	ropani										
d. Settlement	ropani										
e. Others	ropani										
f. Total Area	ropani										

See Map

For location of community forests, see Map.

VDC / WARD PROFILE

Unit	VDC Name										Total
	Ward-1	Ward-2	Ward-3	Ward-4	Ward-5	Ward-6	Ward-7	Ward-8	Ward-9		
2. Demography											
2.1 Household											
a. Total H.											
b. Woman headed H.											
2.2 Ethnic groups											
a. Brahman											
b. Chhetri											
c. Damai											
d. Gurung											
e. Jogi											
f. Kami											
g. Kunwar											
h. Magar											
i. Newar											
j. Sarki											
k. Other 1											
l. Other 2											
m. Other 3											
2.3 Population											
a. Male											
b. Female											
c. Total											
2.4 Age distribution											
≤ 5 yrs											
≥ 6 and ≤ 15 yrs											
≥ 16 and ≤ 24 yrs											
≥ 25 and ≤ 44 yrs											
≥ 45 and ≤ 59 yrs											
≤ 60 yrs											

VDC / WARD PROFILE

	Unit	VDC Name									Total
		Ward-1	Ward-2	Ward-3	Ward-4	Ward-5	Ward-6	Ward-7	Ward-8	Ward-9	
2.5 Educational Level	survey year										
a. University	persons										
-Male	persons										
-Female	persons										
b. College	persons										
-Male	persons										
-Female	persons										
c. S.L.C. passed	persons										
-Male	persons										
-Female	persons										
2.6 Occupation	survey year										
a. Carpenters	persons										
b. Black Smith	persons										
c. Tailor	persons										
d. Bamboo Work	persons										
e. Other handicraft	persons										
f. Mason (Brick Layer)	persons										
g. Teachers	persons										
h. Porters	persons										
i. Work in foreign	persons										
j. Driver	persons										
k. Civil servant	persons										
2.7 Out migration	survey year										
Total of the last 5 yrs	persons										
2.8 Major destinations											
		1									
		2									
		3									
2.9 In migration	survey year										
Total of the last 5 yrs	persons										
2.10 Major origins											
		1									
		2									
		3									

Name of VDC

VDC / WARD PROFILE

Unit	VDC Name									Total	
	Ward-1	Ward-2	Ward-3	Ward-4	Ward-5	Ward-6	Ward-7	Ward-8	Ward-9		
3. Community organizations											
a. Mothers' club	(Y/N)										
b. Farmers' club	(Y/N)										
c. Youth club	(Y/N)										
d. 4-H club	(Y/N)										
e. Ethnic organization	(Y/N)										
f. Religious group	(Y/N)										
g. Users' group (excl. forest)	(Y/N)										
4. Public facilities											
For location, see attached map											
a. Schools											
- Primary School	Class										
- Secondary School	Class										
- High School	Class										
- Campus	nos.										
b. Health facilities											
- Hospitals	nos.										
- H. post/center	nos.										
- Medical shop	nos.										
c. Post office	(Y/N)										
d. Telephone	(Y/N)										
e. No. of shops	nos.										
f. Police station	(Y/N)										
g. Bank	(Y/N)										
h. Drinking water supply	(Y/N)										
1. Elec. supply	(Y/N)										
5. Agriculture/Livestock											
See "Major Cropping Pattern" attached											
a. Major cropping pattern											
- Khet	Pattern No.										
- Pan	Pattern No.										
b. Crops sold to outside	Name										
	Name										
	Name										

Name of VDC

VDC / WARD PROFILE

	Unit	VDC Name									Total
		Ward-1	Ward-2	Ward-3	Ward-4	Ward-5	Ward-6	Ward-7	Ward-8	Ward-9	
c. Food crops insufficient in the village	Name										
	Name										
	Name										
	Name										
d. Livestock raised	Name										
	Name										
	Name										
	Name										
e. Horticultural crops sold to outside	Name										
	Name										
	Name										
6. Forest											
a. Community forests	(Y/N)										
For the details of community forest, see "Profile of Community Forest" attached.											
b. Forest products sold	Name										
	Name										
	Name										
7. Cottage Industries											
a. No. of H.H. involved											
- Rice mill	Hholds										
- Other mill	Hholds										
- Other food processing	Hholds										
- Wood processing	Hholds										
- Bamboo work	Hholds										
- Poultry farming	Hholds										
- Others	Hholds										
8. Natural Disaster in the past 10 years	(Y/N)										
See "Profile of Natural Disaster" attached											

PROFILE OF DEVELOPMENT PROJECTS

VDC	Ward(s) involved	Project Category	Project Status	Project Feature (including No. of beneficiaries)	Fund	Beneficiaries' contribution (Y/N)	Fixed labor charge in village?	User group (Y/N)

Code: Project Category :

1. Drinking water
2. Irrigation
3. Agriculture
4. Reforestation
5. Foot trail
6. Motorable road
7. Check dam
8. Bridge
9. Power supply
10. Communication (Post, telephone)
11. Toilet construction
12. Health facility
13. School
14. Family planning
15. Nutritional improvement
16. Cottage industry
16. Other (specify _____)

Project Status :

1. Completed (year in completion)
2. On-going (year to be completed)
3. Planned (year expected to start)

Fund :

1. Public agencies
2. NGO
3. Others (Specify)

Appendix 5:

CROPPING PATTERN

Khet / Bari	Pattern No.	Month											
		Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec
Khet	<i>Example</i>	←					→					←	
			Wheat					Paddy					
	Pattern-1												
	Pattern-2												
	Pattern-3												
	Pattern-4												
	Pattern-5												
Bari	<i>Example</i>				←				→				
						Maize				Millet			
	Pattern-1												
	Pattern-2												
	Pattern-3												
	Pattern-4												
	Pattern-5												

Appendix 6:

PROFILE OF COMMUNITY FOREST

Location (VDC)	Status	Ward(s) covered by forest	Total forest area (ha)	Ward(s) that use forest	No. of User Household	Dominant Tree Species	Usage of Forest	Management	
								Watchman (Y/N)	Rules (Y/N)
									1 2 3 4 5
									1 2 3 4 5
									1 2 3 4 5
									1 2 3 4 5
									1 2 3 4 5
									1 2 3 4 5
									1 2 3 4 5
									1 2 3 4 5

Code: Status :

1. Formal (recognized by DFO)
2. Under processing for application or approval
3. Informal

Usage of forest :

1. Mainly for fuelwood collection
2. Mainly for fodder and leaf litter collection
3. Mainly for timber
4. Others (Specify _____)

Rules :

1. Boundary rules (whether it has a fixed boundary or not)
2. Input rules (type and amount of resources required by each user to contribute to the user group activities)
3. Harvesting rules (how the benefits are shared by users)
4. Penalty rules (to punish the rule breakers)

Appendix 7:

Natural Disasters

NATURAL DISASTERS IN THE PAST

Location		Type of Disasters	Year / month occurred (Christian era)	Casualty	Damages		Counter measure(s)	
VDC name	Ward No.				Private	Public	Proposed Measures	Implementation (Y / N)
				Killed Injured	Houses	1		
					Livestock	2		
					Farm land	3		
				Killed Injured	Houses	1		
					Livestock	2		
					Farm land	3		
				Killed Injured	Houses	1		
					Livestock	2		
					Farm land	3		
				Killed Injured	Houses	1		
					Livestock	2		
					Farm land	3		

Code: Type of disasters:
 1 Flood
 2 Land slide / Gully
 3 Forest fire
 4 Other (specify _____)

Appendix 8:

HOUSEHOLD SURVEY

M D Y

Date : _____ / _____ / _____

Enumerator : _____

Name of VDC : _____

Ward No. : _____

Tol (settlement) : _____

Ethnic Group : _____

Code for ethnic group

- | | | | |
|------------|-----------|-----------|-----------|
| 1. Brahman | 4. Gurung | 7. Kunwar | 10. Sarki |
| 2. Chhetri | 5. Jogi | 8. Magar | 11. _____ |
| 3. Damai | 6. Kami | 9. Newar | 12. _____ |

SECTION I GENERAL INFORMATION

I-1 Name of interviewee. _____ Sex: M / F Age: _____

I-2 Total number of household members _____ persons

I-3 Household members in the same house including the interviewee and temporal absentees.

	<u>Sex</u>	<u>Age</u>	<u>Education</u>	<u>Farming #1</u> (Y/N)	<u>Main Occupation</u>	<u>Present / Absent #2</u>	<u>Organization</u>	
1.	M / F	_____	_____	_____	_____	P / A	_____	Head
2.	M / F	_____	_____	_____	_____	P / A	_____	
3.	M / F	_____	_____	_____	_____	P / A	_____	
4.	M / F	_____	_____	_____	_____	P / A	_____	
5.	M / F	_____	_____	_____	_____	P / A	_____	
6.	M / F	_____	_____	_____	_____	P / A	_____	
7.	M / F	_____	_____	_____	_____	P / A	_____	
8.	M / F	_____	_____	_____	_____	P / A	_____	
9.	M / F	_____	_____	_____	_____	P / A	_____	
10.	M / F	_____	_____	_____	_____	P / A	_____	
11.	M / F	_____	_____	_____	_____	P / A	_____	

Note: #1: Asking whether or not he / she engages in farming.
 #2: "P" means he / she live in the house throughout the year
 "A" means he / she live in other places more than three months in a year.

Code for education:

- 0. No formal education
- 1 - 10: Class attainment
- 11. SLC passed
- 12. Campus graduate (IA)
- 13. More than college graduate (BA)

Code for occupation:

- 1. Salary worker
- 2. Wage labor
- 3. Private business
- 4. Farmer
- 5. Student
- 6. Pension receiver
- 7. Child
(below school age)
- 8. No job

Code for organization

- 1. Member of mother's club
- 2. Member of farmer's club
- 3. Member of Youth club
- 4. Member of 4-H club
- 5. Member of ethnic org.
- 6. Member of religious org.
- 7. Member of users' group
(specify _____)
- 8. Member of other organization
- 9. Non-member

I-4 Cash income sources of the family.
(please indicate the order of importance, 1, 2, 3).

	<u>Importance</u>
1. Selling crops	_____
2. Selling livestock / dairy products	_____
3. Selling forestry products	_____
4. Salary from permanent job	_____
5. Wage from temporary jobs	_____
6. Pension	_____
7. Remittance from family	_____
8. Private business	_____
9. Others : (_____)	_____

I-5 When did your household settle in the place? _____

- Code for answer:
1. Within the last 10 years
 2. From 10 to 20 years ago
 3. From 20 to 30 years ago
 4. More than 30 years ago

SECTION II LIVING CONDITION

II-1 Drinking Water

<u>Main source</u> (Choose one)	<u>Distance (go and back)</u> (including time for waiting)	<u>Sufficiency</u>
Wet Season _____	_____ minutes	_____
Dry Season _____	_____ minutes	_____
<u>Code for source :</u>	1. Piped water 2. Springs (natural) 3. River	4. Rain water 5. Others
<u>Code for sufficiency :</u>	1. Sufficient 2. Just enough	3. Short 4. Very short

II-2 Source of fuel for cooking/heating.
(Choose up to 3 important items and answer the availability)

	<u>Importance (1, 2, 3)</u>	<u>Availability</u>
1. Fuel wood	1 _____	1 _____
2. Biogas	2 _____	2 _____
3. Crop residue	3 _____	3 _____
4. Cow dung	4 _____	4 _____
5. Gas cylinder	5 _____	5 _____
6. Kerosine	6 _____	6 _____

Code for availability

1. Easily available
2. Difficult to obtain
3. Very difficult to obtain

II-3 Annual consumption of fuelwood by source

1. Own harvest _____ bhari/year (1 bhari = _____ kg)
 Charge, if any _____ Rs/ kg
2. Purchased _____ bhari/year (1 bhari = _____ kg)
 Price : _____ Rs/ kg
3. Total _____ bhari/year

- II-4 Distance to main fuelwood forests. Source-1. _____ minutes (one way)
 Source-2. _____ minutes (one way)
 Source-3. _____ minutes (one way)

II-5 Food condition /availability of household (for your own products / harvest)

	<u>Condition</u>	<u>Shortage in months in a year</u>
Cereals	_____	_____ months/year
Vegetables	_____	_____ months/year
Meat	_____	_____ months/year

- Code for condition: 1. Own harvest / product exceeds the household demand.
 2. Own harvest / product is just enough to meet the household demand.
 3. Purchased or exchanged to meet the household demand.
 4. Do not consume the food item.

II-6 Major diseases (please list the major diseases your family had in the last one year)

- | 1. _____ | <u>Code for answer</u> | |
|----------|----------------------------|-----------------------|
| 2. _____ | 1. Cold | 5. Tapeworm infection |
| 3. _____ | 2. Respiratory diseases | 6. Eye diseases |
| | 3. Bacillary dysentery | 7. Skin diseases |
| | 4. Other diarrhea diseases | 8. Other (_____) |

- II-7 Did family planning worker(s) visit your home before? (Y / N) _____

- II-8 Contraceptive method your family use. (choose all you take) _____, _____, _____, _____

- Code for answer: 1. Pills
 2. Condoms
 3. Norplant
 4. Depo-Provera (injection)
 5. Use of loop / ring
 6. Surgical method (vasectomy)
 7. Surgical method (tubectomy)

- II-9 Availability of toilet facility in your house. (Y / N) _____

SECTION III AGRICULTURE

III-1 Total area of your farm

	<u>Privately owned land</u>	<u>Land rented from others</u>	<u>Land leased to others</u>
Khet	_____ ropani	_____ ropani	_____ ropani
Bari	_____ ropani	_____ ropani	_____ ropani

Sample No. _____

III-2 Damages to your farm by the following incidence in the past 10 years

Category	Frequency	Area affected (on average)
a. Flood	_____	_____ ropani
b. Land slide /gully	_____	_____ ropani
c. Top soil erosion	_____	_____ ropani

Code for frequency: 1. Only once
2. Occasionally
3. Regularly
4. None

III-3 Cropping pattern and production (excluding crops grown in kitchen garden)

Kheta	Crop code	Crop code	Crop code
Cropping pattern-1	_____	_____	_____
Cropping pattern-2	_____	_____	_____
Cropping pattern-3	_____	_____	_____

(please answer for major 4 crops you grow in either wet or dry season)

	Crop 1	Crop 2	Crop 3	Crop 4
a. Name of crops	_____	_____	_____	_____
b. Planted area	_____ ropani	_____ ropani	_____ ropani	_____ ropani
c. Total production	_____ kg	_____ kg	_____ kg	_____ kg
d. Production sold	_____ kg	_____ kg	_____ kg	_____ kg
e. Price at sale	_____ Rs/kg	_____ Rs/kg	_____ Rs/kg	_____ Rs/kg
f. Production given to others (rending, exchanged, etc.)	_____ kg	_____ kg	_____ kg	_____ kg
g. Chemical fertilizer used	_____ kg	_____ kg	_____ kg	_____ kg
h. Main crop damage, if any	_____	_____	_____	_____

Code for crops

- | | |
|------------------|-----------------------|
| 1. Rice | 6. Potato |
| 2. Wheat | 7. Mastard (oil seed) |
| 3. Maize | 8. Beans |
| 4. Finger millet | 9. Vegetables |
| 5. Buckwheat | 10. Others (_____) |
| 6. Barley | |

Code for damage

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1. Drought (water shortage) | 6. Wind |
| 2. Diseases | 7. Land slide / erosion |
| 3. Insects | 8. Flood |
| 4. Animals (specify _____) | 9. Other (_____) |
| 5. Hail stone | 10. None |

Sample No. _____

<u>Bari</u>	<u>Crop code</u>	<u>Crop code</u>	<u>Crop code</u>
Cropping pattern-1	_____	_____	_____
Cropping pattern-2	_____	_____	_____
Cropping pattern-3	_____	_____	_____

(please answer for major 4 crops you grown in either wet or dry season)

	<u>Crop 1</u>	<u>Crop 2</u>	<u>Crop 3</u>	<u>Crop 4</u>
a. Name of crops	_____	_____	_____	_____
b. Planted area	_____ ropani	_____ ropani	_____ ropani	_____ ropani
c. Total production	_____ kg	_____ kg	_____ kg	_____ kg
d. Production sold	_____ kg	_____ kg	_____ kg	_____ kg
e. Price at sale	_____ Rs/kg	_____ Rs/kg	_____ Rs/kg	_____ Rs/kg
f. Production given to others	_____ kg	_____ kg	_____ kg	_____ kg
g. Chemical fertilizer used	_____ kg	_____ kg	_____ kg	_____ kg
h. Main crop damage, if any	_____	_____	_____	_____

SECTION IV LIVESTOCK / ANIMALS

IV-1 Livestock and feed

	Numbers		Wet season		Dry season	
	<u>Young</u>	<u>Adult</u>	<u>Main Feed</u> (select up to 3)	<u>Sufficiency</u>	<u>Main Feed</u> (select up to 3)	<u>Sufficiency</u>
1. Cows / oxen	_____	_____	_____	_____	_____	_____
2. Buffalo	_____	_____	_____	_____	_____	_____
3. Goat	_____	_____	_____	_____	_____	_____
4. Sheep	_____	_____	_____	_____	_____	_____
5. Pig	_____	_____	_____	_____	_____	_____
6. Chicken	_____	_____	_____	_____	_____	_____
7. Duck	_____	_____	_____	_____	_____	_____
8. Rabbit	_____	_____	_____	_____	_____	_____
9. Pigeon	_____	_____	_____	_____	_____	_____
10. Fish (please answer if you grow fish or not)			Yes / No			

Code for main feed:

1. Grass
2. Tree fodder
3. Crop residue
4. Grain

Code for sufficiency:

1. Sufficient
2. Just enough
3. Short
4. Very short

SECTION V FOREST

V-1 Do you have private forest? (Y / N) _____

If Yes, _____ ropani

V-2 Membership of Community Forest _____

Code for answer:

1. Member of forest user group
2. Non-member

Sample No. _____

V-3 Horticultural trees privately owned

	<u>No. of trees</u>		<u>No. of trees</u>
1. Orange trees	_____	7. Banana	_____
2. Lime trees	_____	8. Leichi trees	_____
3. Lemon trees	_____	9. Guava	_____
4. Mango trees	_____	10. Coffee	_____
5. Papaya trees	_____	11. _____	_____
6. Pear trees	_____	12. _____	_____

V-4 Other trees privately owned and their species name

	<u>No. of trees</u>	Name of species (major 3 species)
1. Fodder tree	_____	(_____)
		(_____)
		(_____)
2. Fuelwood trees	_____	(_____)
		(_____)
		(_____)
3. Timber trees	_____	(_____)
		(_____)
		(_____)
4. Bamboo	_____	bunches